

授業コード	N0031		
授業科目名	英語科教育法I(教科教育法I(英語科))(前)		
担当者名	中村耕二(ナカムラ コウジ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜5限
オフィスアワー	火曜日5時限 4時30分から 研究室 6612		

講義の内容	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>国際化時代における英語教育の方法をTEFL(Teaching English as a Foreign Language)の観点から学ぶ。英語教育の本質と目的を明確にし、Communicative Language Teaching (CLT) を中心に、最新の教授法の理論とその実践的アプローチの理解を深める。併せて、英語教師としての自己教育能力の開発も目指す。この授業自体を実践的で参加型の授業と考え、英語教師を目指す者同志で「学びの共同体」の構築に努力する。</p> <p>到達目標としては、受講生が最新のCommunicative Language Teaching (CLT)の理論を十分に理解し、教育実習で実践できる力を養成する。具体的には、授業目標や学習者のレベルに応じて、いかに様々な教授法を柔軟に用いるかを体得し、一連のCommunicative Tasksを通して、学習者中心、双方向でインタラクティブな英語の授業に精通させる。</p>
到達目標	<p>到達目標としては、受講生が最新のCommunicative Language Teaching (CLT)の理論を十分に理解し、教育実習で実践できる力を養成する。具体的には、授業目標や学習者のレベルに応じて、いかに様々な教授法を柔軟に用いるかを体得し、一連のCommunicative Tasksを通して、学習者中心、双方向でインタラクティブな英語の授業に精通させる。</p>
講義方法	<p>英語教育の本質、目的を講義し、各教授法の特徴と問題点等を明らかにする。そして、学生諸君のこれまでに受けてきた英語の授業を踏まえて、各教授法の有効性について議論する。EFLテキスト、国内外のEFL/ESLの授業実演ビデオ、教育実習研究授業録画ビデオ、様々な教授法をまとめたパワーポイント配布資料などを基に講義をする。英語教授法やタスク、言語活動に関する学生諸君の意見発表や口頭発表の機会を多く設けて、学習者中心のインタラクティブな講義を行う。そのために、予習が必須である。講義における使用言語は英語と日本語とする。(4年生以上で教育実習経験者の聴講を認める)</p>
準備学習	<p>英語教育や国際教育に関して、各自、インターネットや図書館で調べ、最近のTEFL教授法やコミュニケーション・アプローチに関する基本的な背景知識を持って講義に参加すること。</p> <p>国際英語、英語教育の記事をよく読んで、自分の考え意見も整理しておくこと。</p>
成績評価	<p>学生に対する評価</p> <p>講義への出席・積極的参加を特に重視する。出席(30%)、プレゼンテーション(40%)、課題レポート(30%)等を総合的に評価する。現場の中学校、高等学校での教育実習に関係するので、無断の遅刻、欠席は一切認めない。</p>
講義構成	<p>授業計画</p> <p>第1回: 英語教育の目標と本質(国際英語論コミュニケーション能力)</p> <p>第2回: 受講生の発表: 印象に残る英語の授業と問題のある授業に対する批判</p> <p>第3回: 英語の授業実演ビデオの鑑賞、分析と批判 (EFL/ESLの場合)</p> <p>第4回: 学習者中心で相互作用のあるコミュニケーションな英語の授業</p> <p>第5回: 高等学校学習指導要領(外国語)と国際理解教育としての英語教育</p> <p>第6回: 英語教授法の基本用語と理論 (approach, method, スキーマ理論等)</p> <p>第7回: 言語習得理論: Natural Approach(クラシェンの5つの仮説)</p> <p>第8回: Communicative Approachの有効性 Communicative Taskの理解と実践方法</p> <p>第9回: 各英語教授法の特徴と問題点 Total Physical Response, Oral Method, Audio-lingual Method,</p> <p>第10回 各英語教授法の特徴と問題点 Total Physical Response, Community Language Learning</p> <p>第11回: 英語評価法: Listening, Speaking, Reading Writing</p> <p>第12回: 英語授業研究の意義(授業実演ビデオを見ての反省とアクション・リサーチの有効性)</p> <p>第13回: 21世紀に求められる日本の英語教育と国際理解教育</p> <p>第14回: 模擬授業を想定した英語の教案作成とCommunicative Taskの発表</p> <p>第15回: 模擬授業を想定した英語の教案作成とCommunicative Taskの発表</p>
教科書	Approaches and Methods in Language Teaching (2003) by Jack Richards and Theodore Rogers (Cambridge University Press)

	英語科教育法 I, II(英語科)中村耕二 (甲南生協)
参考書・資料	推薦図書 『グローバル時代の英語教育-Content-based Process Writing for Oral Presentation』 2007 中村耕二 英宝社 参考図書 『英語教育キーワード辞典』増進堂 『英語科教育の理論と実践-英語科教育法(理論編)』現代教育社
担当者から一言	教授理論を応用した実践的な模擬授業、 現場で中学生や高校生と共に学びあう教育実習は 貴重な体験であり、一生涯忘れられない 心の財産になるであろう。
ホームページタイトル	{KOJI Nakamura Online Desk, http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~koji/ } {Global Literacy in EIL Education, http://ehlt.flinders.edu.au/education/iej/articles/v3n5/6nakam/paper.pdf }
URL	http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~koji/

授業コード	N0032		
授業科目名	英語科教育法II(教科教育法II(英語科))(後)		
担当者名	中村耕二(ナカムラ コウジ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜5限
オフィスアワー	火曜日5時限 4時30分から		

講義の内容	授業の到達目標及びテーマ 前期に学習した様々な英語教授法理論を踏まえて、受講者全員に各自の指導教案に基づく模擬授業を体験してもらい、学習者中心、双方向でコミュニケーションな英語の授業を指導する能力を養う。受講者は模擬授業に教師として、又、生徒として参加することで、授業を客観的に観察し、授業改善の方略を学ぶ。また、模擬授業の後の相互批判、質疑応答など、すべて学習者中心で、参加型の授業を目標とし、英語教師を目指す者同士で「学びの共同体」を構築する。最終目標は教育実習で通用する英語教育の心構え、英語力及び指導法を身につけることである。
到達目標	英語教授法理論を踏まえて、受講者全員に各自の指導教案を書く技術を習得 教案に基づく模擬授業をすすめる能力を養う 学習者中心、双方向でコミュニケーションな英語の授業を指導する能力の開発
講義方法	中学校や高等学校での教育実習や研究授業を想定して教案を書き、受講者はできるだけ英語を使って模擬授業を行う。さらに、それぞれの模擬授業の内容に関して、受講者全員で学びあい、相互批判をし、A Learner's centered Communicative and Interactive Classroom の実現に努力する。教師と学生のそれぞれの立場を経験することで、より良い英語授業の可能性を探る。受講者は全員模擬授業の間に、模擬授業評価用紙を用いて模擬授業を評価し、コメントも書く。クラスメートの模擬授業を評価することで、自分の授業をより客観的に見つけ、自己の授業改善につなげる。 (4年生以上の教育実習経験者及び大学院生の聴講も認める)
準備学習	英語教育や国際教育に関して、各自、インターネットや図書館で調べ、最近のTEFL教授法やコミュニケーション・アプローチに関する基本的な背景知識を持って講義に参加すること。 国際英語、英語教育の記事をよく読んで、自分の考え意見も整理しておくこと。
成績評価	学生に対する評価 講義への出席(30%)と模擬授業の準備、プロセス、成果 (70%)を総合的に評価する。
講義構成	授業計画 1 英語科教育実習、研究授業の意義と教案作成 英語科教育法Iで学んだ教授理論に基づき、受講者全員が授業実演を体得する。(模擬授業:各自35分程度) 2 模擬授業の後、授業改善のために、模擬授業評価用紙に従い、全員で厳しくコメントやアドバイスを。また教育実習経験者や現場の教師をしている卒業生からのアドバイスも受ける。 3授業計画 毎時間2名が模擬授業を行う。

	<p>中学校学習指導要領に基づく模擬授業</p> <p>第1回 中学1年生の授業実演と相互批判、指導教官からのアドバイス</p> <p>第2回 中学1年生の授業実演と相互批判、指導教官からのアドバイス</p> <p>第3回 中学1年生の授業実演と相互批判、指導教官からのアドバイス</p> <p>第4回 中学2年生の授業実演と相互批判、指導教官からのアドバイス</p> <p>第5回 中学2年生の授業実演と相互批判、指導教官からのアドバイス</p> <p>第6回 中学2年生の授業実演と相互批判、指導教官からのアドバイス</p> <p>第7回 中学3年生の授業実演と相互批判、指導教官からのアドバイス</p> <p>第8回 中学3年生の授業実演と相互批判、指導教官からのアドバイス</p> <p>第9回 中学3年生の授業実演と相互批判、指導教官からのアドバイス</p> <p>高等学校学習指導要領に基づく模擬授業</p> <p>第10回 高校英語 英語Ⅰの授業実演と相互批判、指導教官からのアドバイス</p> <p>第11回 高校英語 英語Ⅰの授業実演と相互批判、指導教官からのアドバイス</p> <p>第12回 高校英語 英語Ⅰの授業実演と相互批判、指導教官からのアドバイス</p> <p>第13回 高校英語 英語Ⅱの授業実演と相互批判、指導教官からのアドバイス</p> <p>第14回 オーラル・コミュニケーションⅠの授業又は 高校英語 英語Ⅰの授業</p> <p>第15回 ALTとチームティーチングの授業又は高校英語 英語Ⅰの授業</p>
教科書	<p>前期と同じテキスト</p> <p>Approaches and Methods in Language Teaching (2003) by Jack Richard and Rogers (Cambridge University Press)</p> <p>英語科教育法(英語科)中村耕二(甲南生協)</p>
参考書・資料	<p>『グローバル時代の英語教育』中村耕二 2007(英宝社)</p> <p>『英語教育キーワード辞典』増進堂</p> <p>『英語科教育の理論と実践－英語科教育法(理論編)』現代教育社</p>
担当者から一言	<p>教授理論を応用した実践的な模擬授業、現場で中学生や高校生と共に学びあう教育実習は貴重な体験であり、一生涯忘れられない心の財産になるであろう。</p>
ホームページタイトル	<p>{KOJI Nakamura Online Desk, http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~koji/}</p> <p>{Global Literacy in EIL Education, http://ehl.flinders.edu.au/education/iej/articles/v3n5/6nakam/paper.pdf}</p>
URL	<p>http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~koji/</p>

授業コード	N0251		
授業科目名	学校教育研究(前)		
担当者名	橘 幸男(タチバナ ユキオ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	在室しているかぎり、いつでもどうぞ。		
講義の内容	<p>教育に携わる者としての使命感、教育的愛情を深め、社会性や対人関係能力を磨くとともに、生徒理解や学級経営等の実践力を確固としたものにするを目指す。</p> <p>教員を目指す者は、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、不足している知識・技能等を補い、その定着を図ることが大切である。</p> <p>この科目は、多様な教科・科目による模擬授業、教育課題についての討論、具体的な問題についてのロールプレイングや事例研究などの要素を取り入れて、教職生活を円滑にスタートできるようにすることを目指すので、全回にわたって出席する意欲のある者に限って受講を認める。教職についての基礎的な知識・技能がそなわっていることを前提にして展開するので、そのつもりで受講してほしい。</p>		
到達目標	<p>①広い視野で学校教育の今日的課題を認識し、それに取り組む姿勢と具体的な方法を体得する。</p> <p>②自己の教育目標と教育課題を見据えて、それに取り組む研鑽を深める筋道を定める。</p>		
講義方法	講義、模擬授業、討論、ロールプレイ、事例研究などによって構成する。		
準備学習	自分の研鑽・実践を振り返り、現段階における課題を認識し、それを文章にまとめておくこと。		

	中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領を読み返しておくこと。 教育に関するニュースを新聞などから収集しておくこと。
成績評価	出席状況、演習課題・レポート、試験等により総合的に評価する。
講義構成	受講者数に応じて、各回の内容構成や所要時間数が異なるが、最終的には次のような内容を網羅するものとする。 ①社会人としての基本的資質と、教員としての特質 ②教員組織の中における自己の役割認識と、報告・連絡・調整能力 ③効果的な学習指導の実践力〔模擬授業を含む〕 ④学級経営(ホームルーム経営)の実践力〔模擬指導を含む〕 ⑤学校生活のあらゆる場面において生徒を指導する力 ⑥進路指導、保健安全指導、特別活動指導などにおける実践能力 ⑦保護者・地域住民に対応し連携する力 ⑧当面する教育課題への取り組み(学習指導) ⑨当面する教育課題への取り組み(生徒指導) ⑩当面する教育課題への取り組み(保護者や地域との関係) ⑪当面する教育課題への取り組み(教員集団の力) ⑫国や都道府県などの教育方針を、学校において具体化する力 なお、必要に応じて、随時、教育に関するニュース等を探り入れる。
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領」および各解説編(教科編を含む) 文部科学省「高等学校学習指導要領」および各解説編(教科編を含む) 「教育小六法」「学校小六法」など(出版社名は問わない)
参考書・資料	資料は、ほぼ毎回到わたって配布する。 その他の参考書・資料は、講義の中で紹介・指示をする。
講義関連事項	欠席連絡・面談予約などは、tatibana@center.konan-u.ac.jp へ。
担当者から一言	毎時間、受講生全員が実践的な活動をできるようにする。受講者数は最大15人と考えている。4年次生が望ましい。

授業コード	N0151		
授業科目名	教育課程論(1クラス)(後)		
担当者名	橘 幸男(タチバナ ユキオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	在室しているかぎり、いつでもどうぞ。		

講義の内容	各学校は、教育目標を設定し、創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成して教育活動を展開している。学校の教育課程は、学習指導要領や、学校教育法・学校教育法施行規則などに基づいて編成しているが、生徒一人一人に基礎的・基本的な内容が定着し、分かる授業、楽しい学校を実現することが求められている。それぞれの学校は、各教科等の学習指導要領の改訂の趣旨や要点等を十分に理解した上で、在籍する生徒たちにふさわしい教育課程を編成し教育活動を実施しているのである。 この講義では、教育課程の編成と、それに基づく教育活動の実施を、現実に即して考えていくことにする。
到達目標	①学習指導要領と、それに基づいて編成される各学校の教育課程について深く理解する。 ②教育課程の編成と、それに基づく教育活動の実施と、実現される教育効果の関係などを実践的に理解し、身につける。
講義方法	講義の他に、演習(文章表現、口頭発表、討論など)を可能な限り多く取り入れる。
準備学習	自分の中学校時代・高等学校時代の教育課程がどのようなものであったのかを振り返って、まとめておくこと。(できれば資料を収集しておくこと。) 中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領の、それぞれの「第1章・総則」を一読しておくこと。 教育に関するニュースを新聞などから収集しておくこと。
成績評価	欠席は、3回以内にとどめること。 課題・レポート等は、すべて提出すること。 定期試験は、60パーセント以上を得点すること。(試験は、用紙2枚にわたり、すべて文章表現である。) 以上の3項を満たせば単位修得を認める。
講義構成	第1回 教育課程の意義 第2回 教育の目的・目標と教育課程の編成

	第3回 教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則 第4回 学習指導要領とその変遷 第5回 文部科学省と中央教育審議会 第6回 新しい学力観と、生きる力の育成 第7回 指導内容の系統づけ 第8回 教員組織と施設・設備 第9回 教育課程編成の原則と手順 第10回 中学校における教育課程の編成(1) 第11回 中学校における教育課程の編成(2) 第12回 高等学校における教育課程の編成(1) 第13回 高等学校における教育課程の編成(2) 第14回 教育課程の評価・反省 第15回 試験 なお、必要に応じて、随時、教育に関するニュース等を探り入れる。
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領解説・総則編」(ぎょうせい、137円) 文部科学省「高等学校学習指導要領解説・総則編」(東山書房、245円)
参考書・資料	資料は、ほぼ毎回到わたって配布する。 その他の参考書・資料は、講義の中で紹介・指示をする。
講義関連事項	欠席連絡・面談予約などは、tatibana@center.konan-u.ac.jp へ。
担当者から一言	教員を目指す者には、基本的な生活習慣や、職務への使命感・責任感が不可欠である。出席状況と受講態度とは基本的な生活習慣のあらわれであって、教員を目指す者の基本的な資質に関わることでありと認識してほしい。

授業コード	N0152		
授業科目名	教育課程論 (2クラス)(後)		
担当者名	橋 幸男(タチバナ ユキオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	在室しているかぎりは、いつでもどうぞ。		

講義の内容	各学校は、教育目標を設定し、創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成して教育活動を展開している。学校の教育課程は、学習指導要領や、学校教育法・学校教育法施行規則などに基づいて編成しているが、生徒一人一人に基礎的・基本的な内容が定着し、分かる授業、楽しい学校を実現することが求められている。それぞれの学校は、各教科等の学習指導要領の改訂の趣旨や要点等を十分に理解した上で、在校生生徒たちにふさわしい教育課程を編成し教育活動を実施しているのである。 この講義では、教育課程の編成と、それに基づく教育活動の実施を、現実に即して考えていくことにする。
到達目標	①学習指導要領と、それに基づいて編成される各学校の教育課程について深く理解する。 ②教育課程の編成と、それに基づく教育活動の実施と、実現される教育効果の関係などを実践的に理解し、身につける。
講義方法	講義の他に、演習(文章表現、口頭発表、討論など)を可能な限り多く取り入れる。
準備学習	自分の中学校時代・高等学校時代の教育課程がどのようなものであったのかを振り返って、まとめておくこと。(できれば資料を収集しておくこと。) 中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領の、それぞれの「第1章・総則」を一読しておくこと。 教育に関するニュースを新聞などから収集しておくこと。
成績評価	欠席は、3回以内にとどめること。 課題・レポート等は、すべて提出すること。 定期試験は、60パーセント以上を得点すること。(試験は、用紙2枚にわたり、すべて文章表現である。) 以上の3項を満たせば単位修得を認める。
講義構成	第1回 教育課程の意義 第2回 教育の目的・目標と教育課程の編成 第3回 教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則 第4回 学習指導要領とその変遷 第5回 文部科学省と中央教育審議会 第6回 新しい学力観と、生きる力の育成 第7回 指導内容の系統づけ

	第8回 教員組織と施設・設備 第9回 教育課程編成の原則と手順 第10回 中学校における教育課程の編成(1) 第11回 中学校における教育課程の編成(2) 第12回 高等学校における教育課程の編成(1) 第13回 高等学校における教育課程の編成(2) 第14回 教育課程の評価・反省 第15回 試験 なお、必要に応じて、随時、教育に関するニュース等を探り入れる。
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領解説・総則編」(ぎょうせい、137円) 文部科学省「高等学校学習指導要領解説・総則編」(東山書房、245円)
参考書・資料	資料は、ほぼ毎回到わたって配布する。 その他の参考書・資料は、講義の中で紹介・指示をする。
講義関連事項	欠席連絡・面談予約などは、tatibana@center.konan-u.ac.jp へ。
担当者から一言	教員を目指す者には、基本的な生活習慣や、職務への使命感・責任感が不可欠である。出席状況と受講態度とは基本的な生活習慣のあらわれであって、教員を目指す者の基本的な資質に関わることでありと認識してほしい。

授業コード	N0153		
授業科目名	教育課程論 (3クラス)(後)		
担当者名	上寺常和(カミデラ ツネカズ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限

講義の内容	<p>この教育課程論は、教育課程および指導法に関する科目の領域で、教育課程の意義と編成の方法について教授するものである。教育現場で直ちに活かせる教育課程論を教授する、そのために、教育課程の本質・目的・内容・評価などが、教育実践とのかかわりから解明される。また、教育課程論は、教育基本法や学校教育法を初めとする教育関連諸法規を通して、学習指導要領とのかかわりからいっそう理解されるように考察されるものである。さらに、その指導法は、教育課程論を具体化する、すなわち、実施するためのもので、十分に考慮できる内容を準備する。</p> <p>また、現代の教育課程の目的を実現するために、他の教育関連教科とのかかわりを探ることとする。現在教育課程論において求められているものが何か、履修学生に考えてもらうことを求める。</p>
到達目標	<p>教育課程論に求められている学習指導要領の十分な理解にまず取り掛かり、履修学生に理解してもらう。その上で、教育課程論の基礎的な内容とそれにかかわる方法論を展開し、それらを学習し理解してもらう。それから、現代の教育課程論が取り組まなければならないものを考察してもらう。最終的には、理論研究が、教育現場でできる限り活かせるように方法論を探究できるように指導する。</p>
講義方法	<p>基本的には講義形式で実施する。授業内容によっては、授業の中で、小集団に分かれてもらい討議、検討してもらう、その後、各集団の代表者に発表してもらう。その内容はレポートとして提出してもらう。ときにディベートを導入することを考えている。また、課題を提出するので、その報告をしてもらう。</p> <p>ビデオ・CDなどの干渉をした後に、課題を与えるのでその課題の発表をしてもらう。</p> <p>以上のことを方法として導入するつもりである。</p>
準備学習	<p>前もって課題を知らされたものは、期日まで調査し、整理して、発表可能なものに完成しておくことが求められる。</p> <p>多くの項目を調べるように予告するので、できる限り、インターネットだけでなく、さまざまな教材から抽出して、豊富な内容を準備すること。</p> <p>さまざまな参考図書を紹介するので、図書館やインターネットで調べ、次回の授業までにそれに関するデータは取得しておくことが求められる。</p> <p>配布された資料の中で、次回までに読んでおくことが求められれば、確実に実行しておくこと。</p> <p>など。</p>
成績評価	<p>積極的な授業参加が求められる。その一つは、課題との取り組みである(20%)。試験は実施する(60%)。小グループでの話し合いには積極的に参加し、発表は進んで実施する。(10%) ディベートに参加する(10%)。これらの評価基準は、出席日数が満たされていることは言うまでもない。</p>
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の教育課程論に関する諸問題 2. 教育課程の編成の方法 3. 教育課程と学習指導要領

	4. 教育課程と新学習指導要領 5. 教育課程と学習指導要領の変遷(昭和33年まで) 6. 教育課程と学習指導要領の変遷(昭和末まで) 7. 教育課程と学習指導要領の変遷(現代まで) 8. 教育課程と教育の目的(教育法規に見る) 9. 教育課程とカリキュラムの種類と内容 10. 教育課程の指導法 11. 教育課程の新しい指導法 12. 教育課程と教育の内容 13. 教育課程と評価 14. 教育課程の改革への取り組み 15. 世界の教育課程とまとめ
教科書	上寺常和『新たに成長し続ける学校と教育』日本教育研究センター 2000年
参考書・資料	上寺常和『デュイ教育学と現在・未来の教育』日本教育研究センター 1996年 2010年度版『教育小六法』三省堂
担当者から一言	教育課程論は新学習指導要領との関わりからも教職課程において重要な役割を持っています。真摯な学習態度で探究してください。

授業コード	N0231		
授業科目名	教育行政学(後)		
担当者名	小林靖子(コバヤシ ヤスコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
講義の内容	教育行政とは、国・地方公共団体が教育の目的を実現するために教育を組織し運営する作用であり、また、国民の学習権を保障し、教育目的実現のための条件整備をすることである。この授業では、現代教育行政の基本原則を教育法規に依拠しながら学んでいく。		
到達目標	「教育行政学」においては、教員を目指す学生のため、教育行政および教育法規に関する基本的な知識を得ることを目標にする。また、現代の教育行政をとりまく変化や教育行政における様々な問題、今後の課題について考察する力量を獲得する。		
講義方法	主として講義によるものとし、随時小テストを実施する。(受講人数によっては、グループワークや発表など)		
準備学習	新聞・雑誌等の教育関係の記事を日頃から読んで下さい。 教育法規など覚えなければいけないことが多くあるので、復習を丁寧に行ってください。		
成績評価	小テスト(20)、期末試験(80)、授業参加態度による。		
講義構成	第1回：現代教育改革と教育行政 第2回：教育法規の体系と種類 第3回：日本国憲法と教育 第4回：義務教育制度 第5回：教育基本法(新旧対比と改正について) 第6回：学校組織と教育法規 第7回：学校の組織運営と教育法規 第8回：教育行政と教育法規 第9回：教職員と教育法規 第10回：教育課程と教育法規 第11回：児童・生徒と教育法規 第12回：特別支援教育、幼保一元化と法規 第13回：学校における「事件」「紛争」「事故」と法規 第14回：教育行政の現代的課題 第15回：期末試験		
教科書	『ポケット教育小六法』(晃洋書房)、『教育小六法』(学陽書房)など、いずれの出版社のものでも結構ですので、『教育小六法』を必ず持参してください。		

授業コード	N0131
-------	-------

授業科目名	教育原論 (A)(前)		
担当者名	岡崎公典(オカザキ キミノリ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限

講義の内容	教育原論は、教育の本質、目的、制度を中心とした教育一般の原理を学ぶことを目的としています。人間として重要な営みの一つである「教育」を進める上で必要な基本的な考え方や在り方を教育諸分野の研究成果をもとに学ぶ科目です。 本授業では、内外の教育制度や教育思想家を取り上げ、広く教育の一般原理に就いて理解を深めます。また、現代の社会や学校が抱えている様々な教育問題を学習材として、21世紀に求められる教育の在り方について学びます。
到達目標	「教育」とは何か、を理解するとともに、「教育」についての研究や実践を進めていく上で必要な教育諸分野の基礎知識の修得を目指します。
講義方法	ビデオや配布資料等を使いながら、講義します。
準備学習	事前に配布した資料に目を通して、授業に出席して下さい。
成績評価	期末試験の成績(50%)、授業中の小レポート・出席状況(50%)、期末試験の成績だけでは単位取得は困難です。
講義構成	第1回 教育とは何か 第2回 教育の目的 第3回 教育目標とカリキュラム 第4回 カリキュラム改革の動向 第5回 教育の方法原理① 第6回 教育の方法原理② 第7回 教育の歴史①－外国の教育史－ 第8回 教育の歴史②－日本の教育史－ 第9回 子ども観と教育思想の変遷 第10回 教育評価の原理 第11回 生徒指導の原理 第12回 学校経営と学級経営 第13回 学校制度と教育行政 第14回 生涯学習社会における教育 第15回 まとめ
教科書	とくに使用せず、必要に応じて資料等を配布します。
参考書・資料	授業中に指示します。

授業コード	N0132		
授業科目名	教育原論 (B)(前)		
担当者名	橋 幸男(タチバナ ユキオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	在室しているかぎり、いつでもどうぞ。		

講義の内容	教育は、次代を担う子どもたちを心身ともに健やかに育成する営みである。学校教育に携わる者には、高い専門性と豊かな人間性が求められる。この講義では、教育の本質、教育の目的、教育の内容、教育の方法などについて、実践的に論究する。同時に、今日の教育の姿をしっかりと見つめて、教育の今日的課題について考え、実践的な教育方法について考えていく。また、生涯学習社会における学校教育の役割を考えるとともに、教員を目指している一人一人が自己を見つめ直す機会にもしたいと思う。
到達目標	①教育と人間についての洞察を深め、教育の営みを実践的に理解する。 ②教育に携わる者としての資質・能力の基礎を形成する。
講義方法	講義の他に、演習(文章表現、口頭発表、討論など)を可能な限り多く取り入れる。
準備学習	教育に関する本(新書版程度のもの)を数冊は読んでおくこと。 教育に関するニュースを新聞などから収集しておくこと。

	教職を目指す自分にとっての課題は何であるのかを確認しておくこと。
成績評価	欠席は、3回以内にとどめること。 課題・レポート等は、すべて提出すること。 定期試験は、60パーセント以上を得点すること。(試験は、用紙2枚にわたり、すべて文章表現である。) 以上の3項を満たせば単位修得を認める。
講義構成	第1回 人間の成長・発達と教育 第2回 人間の自己形成 第3回 教育の本質と教育の領域 第4回 教育の目的と内容 第5回 教育計画と教育実践と評価 第6回 学校の機能と、学校教育のしくみ 第7回 教職の専門性と教員養成 第8回 教員の任務と役割 第9回 学力観の変遷と、新しい学力観 第10回 学級経営と学校経営 第11回 学校教育の課題と教育改革 第12回 学校教育と社会教育 第13回 生涯学習社会と学校 第14回 教員の実践的指導力の向上 第15回 試験 なお、必要に応じて、随時、教育に関するニュース等を探り入れる。
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領」(東山書房、244円) 文部科学省「高等学校学習指導要領」(東山書房、588円)
参考書・資料	資料は、ほぼ毎回にわたって配布する。 その他の参考書・資料は、講義の中で紹介・指示をする。
講義関連事項	欠席連絡・面談予約などは、tatibana@center.konan-u.ac.jp へ。
担当者から一言	1年次の「教職入門」の次に、2年次で受講する科目である。 教員を目指す者には、基本的な生活習慣や、職務への使命感・責任感が不可欠である。出席状況と受講態度とは基本的な生活習慣のあらわれであって、教員を目指す者の基本的な資質に関わることでないと認識してほしい。
その他	教員を目指して志気を高めている受講者が迷惑に思う行為(遅刻・私語・居眠り等々)に対しては、受講を遠慮するよう促すこともある。他人に迷惑をかけなければよいというものではない。他人の心に悪影響を及ぼすような行為も排除したいと考えている。携帯電話や飲食物を机の上に置くこともやめてほしい。

授業コード	N0133		
授業科目名	教育原論(C)(前)		
担当者名	藤井一亮(フジイ カズアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜2限
オフィスアワー	月曜日4限(14:40~16:10)		

講義の内容	本講義では、教育の理念・本質、教育の目的、教育の内容と方法、教育の歴史等、教育に関する基礎的な事象を課題とするとともに、教育の制度と経営についても今日的課題と関連づけて考究する。また、さらに基礎的な教育の思想について理解を深める。受講者が、自らの教育観を確立するために必要な教育学の基礎的な教養を身につけることをねらいとする。
到達目標	1. 教職教養の基礎的な知識の習得を通して、教職に対する理解を深め、意欲と関心を高める。 2. 教育の理念と今日的な課題を総合的に考えることができる。 3. 教育の現状を歴史的な視座においてとらえることができる。 4. 学校教育全域にわたって、体系的に把握することができる。 5. 教員を目指す受講生自身の教育観の確立・発展の一助となる。
講義方法	講義・演習及び課題学習による。
準備学習	教科書の予習及び復習しておくこと。 日頃から、新聞等のメディアで取り上げられる教育問題に注意しておくこと。 教育思想に関する古典を、何か一冊、自分で選び、読み始めること。(人物は問わない)

	授業中に紹介する文献に親しむこと。
成績評価	受講態度(積極的な参加・関与度)、課題、レポート、期末試験等を総合的に判断して評価する。 なお、原則として、評価は10回以上の出席がなければ与えられない。
講義構成	1. オリエンテーション(講義の目的、内容、方法及び評価についての確認) 2. 教育とは何かー教育の本質ー 3. 教育の語義と概念ー様々な地域においてー 4. 何のために教育するのかー教育の目的ー 5. 何を教えるのかー教育の内容ー 6. 如何に教えるのかー教育の方法ー学習指導ー 7. 如何に教えるのかー教育の方法ー生徒指導ー 8. 教育の評価について 9. 教育の経営・実践 10. 教育制度の展開 11. 学校教育の普及と義務教育 12. 教育行政の意義について 13. 様々な教育論ー教育思想の展開ー 14. 現代社会における教育的課題と展望
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領」 文部科学省「高等学校学習指導要領」 学文社「新現代教育原理」 米谷光弘他編著
参考書・資料	授業中において提示する。
講義関連事項	本講義は、「教職入門(教師論)」を学んだのち、本格的に教職の道に進もうとする学生のためにひらかれたものである。したがって、教育についての理論的な学習が多くなる。自分の教育観を確立するために努力を惜しまず、研鑽に努めてほしい。
担当者から一言	教員は、常に、人前に自分をさらすことになる。こどもたちのまえに、また保護者や地域の人々の前に。そして語らねばならない。受け売りでない、自分のものを。さあ、自分のものをつくっていこう！

授業コード	N0134		
授業科目名	教育原論(D)(前)		
担当者名	古川 治(フルカワ オサム)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限
特記事項	学芸員資格用クラス		

講義の内容	教育は、次代を担う子どもたちを心身ともに健やかに育成する営みである。学校教育や社会教育に携わる者には、高い専門性と豊かな人間性が求められている。この講義では、教育の本質、教育の目的、教育の内容、教育の方法などについて、実践的に論究する。同時に、今日の教育の姿をしっかりと見つめて、教育の今日的課題について考え、実践的な教育方法について考えていく。また、生涯学習社会における学校教育の役割を考えるとともに、教員を目指している一人一人が自己を見つめ直す機会にもしたい。
到達目標	教育の本質、教育の目的、教育の内容、教育の方法などについて、理解を深める。生涯学習社会における学校教育の役割について自分なりに考えることができるようにする。
講義方法	講義及びグループ学習
準備学習	日頃から、教育に関する新聞等のニュースに関心を持って読んでおくこと。
成績評価	出席状況、受講態度、学習指導案、模擬授業、レポート等により総合的に評価する。
講義構成	第1回：人間の成長・発達と自己形成 第2回：日本の教育の歴史と思想 第3回：世界の教育の歴史と思想 第4回：教育の目的と教育の領域・内容 第5回：教育計画と教育実践と評価 第6回：指導計画・指導案の作成 第7回：学校の機能と、学校教育のしくみ 第8回：教職の専門性と教員養成 第9回：教員の任務と役割 第10回：学力観の変遷と、新しい学力観

	第11回：学級経営と学校経営 第12回：学校教育の課題と教育改革 第13回：学校教育と社会教育 第14回：生涯学習社会と学校 第15回：まとめ なお、必要に応じて、教育に関する話題を取り入れる。
教科書	プリントによる。

授業コード	N0241		
授業科目名	教育史(前)		
担当者名	小林靖子(コバヤシ ヤスコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限

講義の内容	教育史を学ぶということは、単に過去の教育制度や教育思想を知るということではありません。現代の教育をよりよく理解・考察し、かつ今後の教育を考えていくということです。また、教育史の学習を通して「教育とは何か」という問いについて考察していくことになるでしょう。		
到達目標	古代から現代までの教育史の流れを大まかに捉えること。教育思想の流れを代表的な人物の思想とともにたどり、現代教育とのつながりを考えること。教育制度の変遷を捉えること。		
講義方法	主に、講述方法を取ると思いますが、受講生の人数によって、参加型の授業形式を取りいれたいとも考えています。		
準備学習	テキストや配付資料、関連文献を読むこと。		
成績評価	小テスト(30点)と最終試験(70点)により、総合評価。「欠席」評価は、総合的にみて、判断します。		
講義構成	1. オリエンテーション 2. 古代ギリシアの教育 3. 古代ローマの教育 4. 中世ヨーロッパの教育 5. 近世ヨーロッパの教育 6. 近代の教育 7. 近代公教育体制の成立 8. 日本近世以前の教育 9. 日本近世の教育 10. 日本近代の教育: 明治前期 11. 日本近代の教育: 明治後期 12. 日本近代の教育: 大正、昭和前期 13. 20世紀の教育 14. 現代日本の教育改革の動向 15. まとめ及び試験		
教科書	中谷彪他『西洋教育思想小史』晃洋書房、2006。		
参考書・資料	講義中に、適宜指示配布します。		
講義関連事項	講義は、教科書および配付資料に沿って進めていきます。講義構成は、講義進度によって順序が変更になることもあります。		

授業コード	N0001		
授業科目名	教育実習I(国語科)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次	4年次	単位数	5
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	本登録票に基づき事前登録		

講義の内容	高等学校または中学校において教育実習を行うこと、および、そのための本校における事前指導、事後指導。
到達目標	教材研究が行え、学習指導案が作成でき、自分で納得できる授業ができるようになること。
講義方法	参観、参加、教材研究、教材作成、学習指導案の作成、授業、評価など。実際に教育に関する各種の活動を行う。
準備学習	実習校で使われている国語の教科書について、その全体像を把握しておくこと。
成績評価	教育実習における成績を主とし、事前、事後指導における成績を助案する。
講義構成	事前指導→教育実習→事後指導 事前指導は、主に現職の先生方によって、本校で行われる。 教育実習の準備のために、常用漢字の修得、筆順の点検、語彙・語法の復習、国語史・国文学史の復習などを行っておくとよい。 また、早いうちに実習校を訪問した上で、さらに的をしぼって実習のための予習を行っておくこと。 教育実習期間中は朝はやくから放課後遅くまで実習校で過ごす必要のあることが多く、その勤務に耐えられるかどうか、最善の状態を実習に取り組めるかどうか、自分の健康や自宅からの往復の時間なども計算して、早いうちに判断しておくこと。 授業の参観などにおいても、漠然とではなく、目的をもって観察をすること。生徒の名前をはやく覚えること。授業時間だけでなく、休み時間などを利用して生徒に近づいておくこと、教材研究などに間接的に役にたつことがある。ただし、規律をもって接すること。 積極的な気構えで、かつ謙虚に学習させてもらう気持ちで実習期間を送られるよう望まれる。 事後指導の日程は教務の掲示板に掲示されるから見落とさないように。今年は、3年次の「教科教育法(国語科)」の時間にも教育実習の報告をしてもらう予定である。 社会人としての良識のある行動をとること。
教科書	実習校の指示による。
参考書・資料	日本語日本文学科の共同研究室に多数ある。
担当者から一言	見るとやるとでは大違い。やってみないと、分からぬこともある。

授業コード	N0002		
授業科目名	教育実習I (英語科)		
担当者名	中村耕二(ナカムラ コウジ)		
配当年次	4年次	単位数	5
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	本登録票に基づき事前登録		
オフィスアワー	在室中はいつでも		

講義の内容	教育実習は、教員になるための実地研修を行うことが目的であり、学生から教師への立場の大きな転換を経験する機会である。生徒を指導する立場に立つことによって、教師としての資質・力量が厳しく問われるので、真摯な態度でのぞんでほしい。
到達目標	教育実習生として、教育現場で責任を持って学習指導、生徒指導ができる資質を養う。 現在の公立高校、中学校で生徒のニーズを認識し、愛情を持って指導できる資質を養う。
講義方法	参観、参加、教材研究、教材作成、学習指導案の作成、授業、評価など。実際に教育に関する各種の活動を行なう。
準備学習	教科教育で学んだ教材研究、教材作成、学習指導案の作成、授業展開、授業評価を再度復習しておくこと。
成績評価	事前指導、事後指導、教育実習校からの実習評価報告書等をもとに総合的に評価する。
講義構成	1. 教育実習事前指導(学内)

	<p>イ. 教育実習の意義・目的 ロ. 学校現場の実際と教育実習の心得 ハ. 教材研究・教材解釈 ニ. 授業の方法と形態 ホ. 模擬授業と授業評価 ヘ. 生徒指導ほか</p> <p>2. 教育実習(学外) 実習は観察、参加及び実地授業からなり、実習校の教育方針に沿っておこなわれる。実習校での指導助言を謙虚に受け入れ、望ましい教師としての自己形成につとめてほしい。実習時期は5月下旬から6月中旬(実習校の都合によっては9月頃)で、期間: I は3週間、II は2週間。</p> <p>3. 教育実習事後指導(学内) イ. 授業実践の分析 ロ. 教育実習の反省と今後の課題</p>
教科書	Approaches and Methods in Language Teaching (2003) by Jack Richards and Theodore Rogers (Cambridge University Press) 英語科教育法 I, II(英語科)中村耕二 (甲南生協)
参考書・資料	推薦図書 『グローバル時代の英語教育-Content-based Process Writing for Oral Presentation』 2007 中村耕二 英宝社
その他	履修上の注意: <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習参加者は、教員志望の意志が明確であり、教育実習予備登録及び本登録等の諸手続を完了していること。 ・教育実習に参加するためには、3年次修了までに教師論、教育原論、教育心理、教育の方法・技術、教科教育法 I・II、生徒指導法及び教育相談の単位を修得しておかなければならない。 ・教育実習は、教育職員免許状取得上、不可欠なものである。欠席・遅刻・早退が許されないので、教育実習に専念できる態勢を整えておくこと。 ・事前指導への出席が不良の場合は実習への参加を認めない。また、事後指導に出席しない場合は単位を認めない。事前・事後指導の実施期日・場所は掲示で知らせる。
ホームページタイトル	Koji's Desk On Line (http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~koji/)
URL	http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~koji/

授業コード	N0003		
授業科目名	教育実習I (社会・地理歴史・公民科)		
担当者名	藤井一亮(フジイ カズアキ)		
配当年次	4年次	単位数	5
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	本登録票に基づき事前登録		
オフィスアワー	月曜日4限(14:40～16:10)		

講義の内容	教育実習は、教員になるために最終的に求められている実地研修を含む科目である。学生から教師への立場の大きな転換を経験する機会である。生徒を直接指導する立場に立つことになるので、教師としての資質・力量が厳しく問われる。この試練を経ることによって、教員免許状に一步近づくことができる。なお、当然のことであるが、実習は、事前指導から現場実習、そして事後指導までの一貫した流れのものであることを確認しておく。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校現場において、教師の仕事の一端がわかる。 2. 学校現場で生起することに対して、教員としてそれらを理解できるようになる。 3. 生徒指導及び生徒理解が実践の場で深まることができる。 4. 生徒の実態が千差万別であることや保護者の願いが理解できる。 5. 大学で学んだことを学校の実態に即して応用しなければならないことが実感できる。 6. 教員免許状に名実ともに近づいていくことが肌でわかる。
講義方法	講義、参観、教材研究、教材作成、学習指導案の作成、授業、評価など、実際に教育実践に関する各種の活動を学ぶ。
準備学習	教育実習に行くまでに、履修が義務づけられている諸科目を復習しておくこと。

成績評価	事前指導、事後指導および教育実習校からの実習評価報告書などをもとに総合的に評価する
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 教育実習事前指導(学内) <ol style="list-style-type: none"> 教育実習の意義と目的 学校現場の実際と教育実習の心得 教材研究と教材解釈 授業の方法と形態 授業実践と授業評価 生徒指導他 <ol style="list-style-type: none"> 教育実習(学外) <p>実習は観察、参加及び実地授業からなり、実習校の教育方針に沿っておこなわれる。実習校での指導助言を謙虚に受け入れ望ましい教師としての自己形成に努めること。実習期間は5月下旬から6月中旬(実習校の都合によっては9月頃)で、期間は、教育実習Ⅰは3週間、教育実習Ⅱは2週間である。</p> 教育実習事後指導 <ol style="list-style-type: none"> 授業実践の分析 教育実習の反省と今後の課題
教科書	甲南大学「2010年度 教職ガイドブック」
講義関連事項	<ol style="list-style-type: none"> 教育実習参加者は、教員志望の意志が明確であり、教育実習予備登録及び本登録の諸手続が完了していること。 教育実習に参加するためには、3年次終了までに、教職入門(教師論)、教育原論、教育心理、教育の方法・技術、教科教育法Ⅰ・Ⅱ、生徒指導法及び教育相談の単位を修得しておかなければならない。 教育実習は教育職員免許状取得上、不可欠のものである。欠席、遅刻、早退が許されないので、教育実習に専念できる態勢を整えておくこと。 事前指導への出席が不良の場合は実習への参加を認めない。また、事後指導に出席しない場合は単位を認めない。事前・事後指導の実施期日・場所は掲示で知らせる。
担当者から一言	教育実習は、学校の教育計画に基づいて実際に教育が行われている現場に行くものである。また、実習校は好意でもって受け入れてくれているのである。生徒も、模擬授業ではなく、正規の授業として、受講しているのである。これらのことなどをよく考えて、全霊を傾け、誠心誠意、実習に取り組むこと。

授業コード	N0004		
授業科目名	教育実習Ⅰ(理科)		
担当者名	林 慶一(ハヤシ ケイイチ)		
配当年次	4年次	単位数	5
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	本登録票に基づき事前登録		
オフィスアワー	林 慶一(随時)		

講義の内容	教育実習は、教員になるための実地研修を行うことが目的であり、学生から教師への立場の大きな転換を経験する機会である。生徒を指導する立場に立つことによって、教師としての資質・力量が厳しく問われるので、真摯な態度でのぞんでほしい。
到達目標	中学校の理科の物理・化学・生物・地学の全分野について、適切な教材・実験を構成し、効果的な授業を行うための諸能力を確立する。
講義方法	参観、参加、教材研究、教材作成、学習指導案の作成、授業、評価など。実際に教育に関する各種の活動を行なう。
準備学習	担当する科目・単元の内容について早めに実習校からの情報を得て、その領域の科学的な勉強をしっかりとしておくこと。実習校に行ってからではこれを行う時間的余裕がほとんどありません。
成績評価	事前指導、事後指導、教育実習校からの実習評価報告書等をもとに総合的に評価する。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 教育実習事前指導(学内) <ol style="list-style-type: none"> 教育実習の意義・目的 学校現場の実際と教育実習の心得 教材研究・教材解釈 授業の方法と形態 模擬授業と授業評価

	<p>へ. 生徒指導ほか</p> <p>2. 教育実習(学外) 実習は観察、参加及び実地授業からなり、実習校の教育方針に沿っておこなわれる。実習校での指導助言を謙虚に受け入れ、望ましい教師としての自己形成につとめてほしい。実習時期は5月下旬から6月中旬(実習校の都合によっては9月頃)で、期間は3週間(参考:Ⅱは2週間)。</p> <p>3. 教育実習事後指導(学内) イ. 授業実践の分析 ロ. 教育実習の反省と今後の課題</p>
教科書	<p>中学校理科教科書「第一分野上・下」, 同「第二分野上・下」4冊で2,000円程度。「中学校学習指導要領」(東山書房, 244円), 「中学校学習指導要領解説理科編」(大日本図書, 110円)。(後2書は文部科学省の下記のHPからダウンロードもできるが、印刷費よりも安く買えるので購入を勧める) http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/index.htm</p>

その他	<p>履修上の注意:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習参加者は、教員志望の意志が明確であり、教育実習予備登録及び本登録等の諸手続を完了していること。 ・教育実習に参加するためには、3年次修了までに教師論、教育原論、教育心理、教育の方法・技術、教科教育法Ⅰ・Ⅱ、生徒指導法及び教育相談の単位を修得しておかなければならない。 ・教育実習は、教育職員免許状取得上、不可欠なものである。欠席・遅刻・早退が許されないので、教育実習に専念できる態勢を整えておくこと。 ・事前指導への出席が不良の場合は実習への参加を認めない。また、事後指導に出席しない場合は単位を認めない。事前・事後指導の実施期日・場所は掲示で知らせる。
-----	--

授業コード	N0005		
授業科目名	教育実習Ⅰ(数学科)		
担当者名	高橋 正(タカハシ タダシ)		
配当年次	4年次	単位数	5
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	本登録票に基づき事前登録		

講義の内容	教育実習は、教員になるための実地研修を行うことが目的であり、学生から教師への立場の大きな転換を経験する機会である。生徒を指導する立場に立つことによって、教師としての資質・力量が厳しく問われるので、真摯な態度でのぞんでほしい。
到達目標	教員免許を取得し、将来、教員もしくは教育に関わる仕事をを目指す人材を育成する。
講義方法	参観、参加、教材研究、教材作成、学習指導案の作成、授業、評価など、実際に教育に関する各種の活動を行なう。
準備学習	3年次修了までに教師論、教育原論、教育心理、教育の方法・技術、教科教育法Ⅰ・Ⅱ、生徒指導法及び教育相談の単位を修得しておくこと。
成績評価	事前指導、事後指導、教育実習校からの実習評価報告書等をもとに総合的に評価する。
講義構成	<p>1. 教育実習事前指導(学内) イ. 教育実習の意義・目的 ロ. 学校現場の実際と教育実習の心得 ハ. 教材研究・教材解釈 ニ. 授業の方法と形態 ホ. 模擬授業と授業評価 ヘ. 生徒指導ほか</p> <p>2. 教育実習(学外) 実習は観察、参加及び実地授業からなり、実習校の教育方針に沿っておこなわれる。実習校での指導助言を謙虚に受け入れ、望ましい教師としての自己形成につとめてほしい。実習時期は5月下旬から6月中旬(実習校の都合によっては9月頃)。</p> <p>3. 教育実習事後指導(学内) イ. 授業実践の分析 ロ. 教育実習の反省と今後の課題</p>

教科書	適宜示す。
担当者から一言	履修上の注意: ・教育実習参加者は、教員志望の意志が明確であり、教育実習予備登録及び本登録等の諸手続を完了していること。 ・教育実習に参加するためには、3年次修了までに教師論、教育原論、教育心理、教育の方法・技術、教科教育法Ⅰ・Ⅱ、生徒指導法及び教育相談の単位を修得しておかなければならない。 ・教育実習は、教育職員免許状取得上、不可欠なものである。欠席・遅刻・早退が許されないので、教育実習に専念できる態勢を整えておくこと。 ・事前指導への出席が不良の場合は実習への参加を認めない。また、事後指導に出席しない場合は単位を認めない。事前・事後指導の実施期日・場所は掲示で知らせる。

授業コード	N0006		
授業科目名	教育実習Ⅰ(情報科)		
担当者名	新田直也(ニッタ ナオヤ)		
配当年次	4年次	単位数	5
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	本登録票に基づき事前登録		

講義の内容	教育実習は、教員になるための実地研修を行うことが目的であり、学生から教師への立場の大きな転換を経験する機会である。生徒を指導する立場に立つことによって、教師としての資質・力量が厳しく問われるので、真摯な態度でのぞんでほしい。
到達目標	1. 学校現場において、教師の仕事の一端がわかる。 2. 学校現場で生起することに対して、教員としてそれらを理解できるようになる。 3. 生徒指導及び生徒理解が実践の場で深まることができる。 4. 生徒の実態が千差万別であることや保護者の願いが理解できる。 5. 大学で学んだことを学校の実態に即して応用しなければならないことが実感できる。 6. 教員免許状に名実ともに近づいていくことが肌でわかる。
講義方法	参観、参加、教材研究、教材作成、学習指導案の作成、授業、評価など。実際に教育に関する各種の活動を行なう。
準備学習	教育実習までに、履修が義務付けられている諸科目を復習しておくこと。
成績評価	事前指導、事後指導、教育実習校からの実習評価報告書等をもとに総合的に評価する。
講義構成	1. 教育実習事前指導(学内) イ. 教育実習の意義・目的 ロ. 学校現場の実際と教育実習の心得 ハ. 教材研究・教材解釈 ニ. 授業の方法と形態 ホ. 模擬授業と授業評価 ヘ. 生徒指導ほか 2. 教育実習(学外) 実習は観察、参加及び実地授業からなり、実習校の教育方針に沿っておこなわれる。実習校での指導助言を謙虚に受け入れ、望ましい教師としての自己形成につとめてほしい。実習時期は5月下旬から6月中旬(実習校の都合によっては9月頃)。 3. 教育実習事後指導(学内) イ. 授業実践の分析 ロ. 教育実習の反省と今後の課題
教科書	2010年度教職ガイドブック

その他	履修上の注意: ・教育実習参加者は、教員志望の意志が明確であり、教育実習予備登録及び本登録等の諸手続を完了していること。 ・教育実習に参加するためには、3年次修了までに教師論、教育原論、教育心理、教育の方法・技術、教科教育法Ⅰ・Ⅱ、生徒指導法及び教育相談の単位を修得しておかなければならない。 ・教育実習は、教育職員免許状取得上、不可欠なものである。欠席・遅刻・早退が許されないので、教育実習に
-----	--

	<p>専念できる態勢を整えておくこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前指導への出席が不良の場合は実習への参加を認めない。また、事後指導に出席しない場合は単位を認めない。事前・事後指導の実施期日・場所は掲示で知らせる。
--	--

授業コード	N0011		
授業科目名	教育実習II (国語科)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次	4年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	本登録票に基づき事前登録		

講義の内容	高等学校または中学校において教育実習を行うこと、および、そのための本校における事前指導、事後指導。
到達目標	教育実習 I と同じ。
講義方法	参観、参加、教材研究、教材作成、学習指導案の作成、授業、評価など。実際に教育に関する各種の活動を行う。
準備学習	教育実習 I と同じ。
成績評価	教育実習における成績を主に評価する。
講義構成	<p>事前指導→教育実習→事後指導</p> <p>事前指導は、主に現職の教諭の先生方によって、本校で行われる。</p> <p>教育実習の準備のために、常用漢字の修得、筆順の点検、語彙・語法の復習、国語史・国文学史の復習などを行っておくとよい。</p> <p>授業の参観などにおいても、漠然とではなく、目的をもって観察をすること。生徒の名前をはやく覚えること。授業時間だけでなく、休み時間などを利用して生徒に近づいておくこと、教材研究などに間接的に役にたつことがある。ただし、規律をもって接すること。</p> <p>積極的な気構えで、かつ謙虚に学習させてもらおう気持ちで実習期間を送られるよう望まれる。</p> <p>事後指導の日程は教務の掲示板上に掲示されるから見落とさないように。今年は、3年次の「教科教育法(国語科)」の時間にも教育実習の報告をしてもらう予定である</p> <p>実習期間は実習指導校の指示に従い、積極的に指導を仰ぐように。</p>
教科書	実習校の指示による。
参考書・資料	日本語日本文学科の共同研究室に多数ある。

担当者から一言	見るとやるとでは大違い。やってみないと、分からぬこともある。
---------	--------------------------------

授業コード	N0012		
授業科目名	教育実習II (英語科)		
担当者名	中村耕二(ナカムラ コウジ)		
配当年次	4年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	本登録票に基づき事前登録		
オフィスアワー	在室中はいつでも		

講義の内容	<p>教育実習は、教員になるための実地研修を行うことが目的であり、学生から教師への立場の大きな転換を経験する機会である。生徒を指導する立場に立つことによって、教師としての資質・力量が厳しく問われるので、真</p>
-------	--

	摯な態度でのぞんでほしい。
到達目標	教育実習生として、教育現場で責任を持って学習指導、生徒指導ができる資質を養う。 現在の公立高校、中学校で生徒のニーズを認識し、愛情を持って指導できる資質を養う。
講義方法	参観、参加、教材研究、教材作成、学習指導案の作成、授業、評価など。実際に教育に関する各種の活動を行なう。
準備学習	教科教育で学んだ教材研究、教材作成、学習指導案の作成、授業展開、授業評価を再度復習しておくこと。
成績評価	事前指導、事後指導、教育実習校からの実習評価報告書等をもとに総合的に評価する。
講義構成	1. 教育実習事前指導(学内) イ. 教育実習の意義・目的 ロ. 学校現場の実際と教育実習の心得 ハ. 教材研究・教材解釈 ニ. 授業の方法と形態 ホ. 模擬授業と授業評価 ヘ. 生徒指導ほか 2. 教育実習(学外) 実習は観察、参加及び実地授業からなり、実習校の教育方針に沿っておこなわれる。実習校での指導助言を謙虚に受け入れ、望ましい教師としての自己形成につとめてほしい。実習時期は5月下旬から6月中旬(実習校の都合によっては9月頃)で、期間: I は3週間、II は2週間。 3. 教育実習事後指導(学内) イ. 授業実践の分析 ロ. 教育実習の反省と今後の課題
教科書	Approaches and Methods in Language Teaching (2003) by Jack Richards and Theodore Rogers (Cambridge University Press) 英語科教育法 I, II(英語科)中村耕二 (甲南生協)
参考書・資料	推薦図書 『グローバル時代の英語教育-Content-based Process Writing for Oral Presentation』 2007 中村耕二 英宝社
その他	履修上の注意: ・教育実習参加者は、教員志望の意志が明確であり、教育実習予備登録及び本登録等の諸手続を完了していること。 ・教育実習に参加するためには、3年次修了までに教師論、教育原論、教育心理、教育の方法・技術、教科教育法 I・II、生徒指導法及び教育相談の単位を修得しておかなければならない。 ・教育実習は、教育職員免許状取得上、不可欠なものである。欠席・遅刻・早退が許されないため、教育実習に専念できる態勢を整えておくこと。 ・事前指導への出席が不良の場合は実習への参加を認めない。また、事後指導に出席しない場合は単位を認めない。事前・事後指導の実施期日・場所は掲示で知らせる。
ホームページタイトル	Koji's Desk On Line
URL	http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~koji/

授業コード	N0013		
授業科目名	教育実習II(社会・地理歴史・公民科)		
担当者名	藤井一 亮(フジイ カズアキ)		
配当年次	4年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	本登録票に基づき事前登録		
オフィスアワー	月曜日4限(14:40～16:10)		
講義の内容	教育実習は、教員になるために最終的に求められている実地研修を含む科目である。学生から教師への立場の大きな転換を経験する機会である。生徒を直接指導する立場に立つことになるので、教師としての資質・力量が厳しく問われる。この試練を経ることによって、教員免許状に一步近づけることができる。なお、当然のことであるが、実習は、事前指導から現場実習、そして事後指導までの一貫した流れのものであることを確認しておく。		

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校現場において、教師の仕事の一端がわかる。 2. 学校現場で生起することに対して、教員としてそれらを理解できるようになる。 2. 生徒指導及び生徒理解が実践の場で深まることができる。 3. 生徒の実態が千差万別であることや保護者の願いが理解できる。 4. 大学で学んだことを学校の実態に即して応用しなければならないことが実感できる。 5. 教員免許状に名実ともに近づいていくことが肌でわかる。
講義方法	講義、参観、教材研究、教材作成、学習指導案の作成、授業、評価など、実際に教育実践に関する各種の活動を学ぶ。
準備学習	教育実習に行くまでに、履修が義務づけられている諸科目を復習しておくこと。
成績評価	事前指導、事後指導および教育実習校からの実習報告書などをもとに総合的に評価する。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習事前指導(学内) <ol style="list-style-type: none"> イ. 教育実習の意義と目的 ロ. 学校現場の実際と教育実習の心得 ハ. 教材研究と教材解釈 ニ. 授業の方法と形態 ホ. 授業実践と授業評価 ヘ. 生徒指導他 <ol style="list-style-type: none"> 2. 教育実習(学外) <p>実習は観察、参加及び実地授業からなり、実習校の教育方針に沿っておこなわれる。実習校での指導助言を謙虚に受け入れ望ましい教師としての自己形成に努めること。実習期間は5月下旬から6月中旬(実習校の都合によっては9月頃)で、期間は、教育実習Ⅰは3週間、教育実習Ⅱは2週間である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 教育実習事後指導 <ol style="list-style-type: none"> イ. 授業実践の分析 ロ. 教育実習の反省と今後の課題
教科書	甲南大学「2010年度 教育実習ガイドブック」
講義関連事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習参加者は、教員志望の意志が明確であり、教育実習予備登録及び本登録の諸手続が完了していること。 2. 教育実習に参加するためには、3年次終了までに、教職入門(教師論)、教育原論、教育心理、教育の方法・技術、教科教育法Ⅰ・Ⅱ、生徒指導法及び教育相談の単位を修得しておかなければならない。 3. 教育実習は教育職員免許状取得上、不可欠のものである。欠席、遅刻、早退が許されないので、教育実習に専念できる態勢を整えておくこと。 4. 事前指導への出席が不良の場合は実習への参加を認めない。また、事後指導に出席しない場合は単位を認めない。事前・事後指導の実施期日・場所は掲示で知らせる。
担当者から一言	教育実習は、学校の教育計画に基づいて実際に教育が行われている現場に行くものである。また、実習校は好意でもって受け入れてくれているのである。生徒も、模擬授業ではなく、正規の授業として、受講しているのである。これらのことなどをよく考えて、全霊を傾け、誠心誠意、実習に取り組むこと。

授業コード	N0014		
授業科目名	教育実習Ⅱ(理科)		
担当者名	林 慶一(ハヤシ ケイイチ)		
配当年次	4年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	本登録票に基づき事前登録		
オフィスアワー	林 慶一(随時)		

講義の内容	教育実習は、教員になるための実地研修を行うことが目的であり、学生から教師への立場の大きな転換を経験する機会である。生徒を指導する立場に立つことによって、教師としての資質・力量が厳しく問われるので、真摯な態度でのぞんでほしい。
到達目標	高等学校の理科の物理・化学・生物・地学の全分野について、適切な教材・実験を構成し、効果的な授業を行うための諸能力を確立する。
講義方法	参観、参加、教材研究、教材作成、学習指導案の作成、授業、評価など。実際に教育に関する各種の活動を行なう。

準備学習	担当する科目・単元の内容について早めに実習校からの情報を得て、その領域の科学的な勉強をしっかりとしておくこと。実習校に行ってからではこれを行う時間的余裕がほとんどありません。
成績評価	事前指導、事後指導、教育実習校からの実習評価報告書等をもとに総合的に評価する。
講義構成	<p>1. 教育実習事前指導(学内)</p> <p>イ. 教育実習の意義・目的</p> <p>ロ. 学校現場の実際と教育実習の心得</p> <p>ハ. 教材研究・教材解釈</p> <p>ニ. 授業の方法と形態</p> <p>ホ. 模擬授業と授業評価</p> <p>ヘ. 生徒指導ほか</p> <p>2. 教育実習(学外)</p> <p>実習は観察、参加及び実地授業からなり、実習校の教育方針に沿っておこなわれる。実習校での指導助言を謙虚に受け入れ、望ましい教師としての自己形成につとめてほしい。実習時期は5月下旬から6月中旬(実習校の都合によっては9月頃)で、期間は2週間(参考: I は3週間)。</p> <p>3. 教育実習事後指導(学内)</p> <p>イ. 授業実践の分析</p> <p>ロ. 教育実習の反省と今後の課題</p>
教科書	高等学校の検定済教科書「物理 I」、「化学 I」、「生物 I」、「地学 I」、「高等学校学習指導要領」(東山書房, 588円, 文部科学省の下記のHPからダウンロードもできる)、「高等学校学習指導要領解説理科編」(現状では文部科学省の下記のHPからダウンロードするしかない) http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/index.htm
その他	<p>履修上の注意:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習参加者は、教員志望の意志が明確であり、教育実習予備登録及び本登録等の諸手続を完了していること。 ・教育実習に参加するためには、3年次修了までに教師論、教育原論、教育心理、教育の方法・技術、教科教育法 I・II、生徒指導法及び教育相談の単位を修得しておかなければならない。 ・教育実習は、教育職員免許状取得上、不可欠なものである。欠席・遅刻・早退が許されないので、教育実習に専念できる態勢を整えておくこと。 ・事前指導への出席が不良の場合は実習への参加を認めない。また、事後指導に出席しない場合は単位を認めない。事前・事後指導の実施期日・場所は掲示で知らせる。

授業コード	N0015		
授業科目名	教育実習II(数学科)		
担当者名	高橋 正(タカハシ タダシ)		
配当年次	4年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	本登録票に基づき事前登録		
講義の内容	教育実習は、教員になるための実地研修を行うことが目的であり、学生から教師への立場の大きな転換を経験する機会である。生徒を指導する立場に立つことによって、教師としての資質・力量が厳しく問われるので、真摯な態度でのぞんでほしい。		
到達目標	教員免許を取得し、将来、教員もしくは教育に関わる仕事をを目指す人材を育成する。		
講義方法	参観、参加、教材研究、教材作成、学習指導案の作成、授業、評価など、実際に教育に関する各種の活動を行なう。		
準備学習	3年次修了までに教師論、教育原論、教育心理、教育の方法・技術、教科教育法 I・II、生徒指導法及び教育相談の単位を修得しておくこと。		
成績評価	事前指導、事後指導、教育実習校からの実習評価報告書等をもとに総合的に評価する。		
講義構成	<p>1. 教育実習事前指導(学内)</p> <p>イ. 教育実習の意義・目的</p> <p>ロ. 学校現場の実際と教育実習の心得</p> <p>ハ. 教材研究・教材解釈</p> <p>ニ. 授業の方法と形態</p>		

	ホ. 模擬授業と授業評価 ヘ. 生徒指導ほか 2. 教育実習(学外) 実習は観察、参加及び実地授業からなり、実習校の教育方針に沿っておこなわれる。実習校での指導助言を謙虚に受け入れ、望ましい教師としての自己形成につとめてほしい。実習時期は5月下旬から6月中旬(実習校の都合によっては9月頃)。 3. 教育実習事後指導(学内) イ. 授業実践の分析 オ. 教育実習の反省と今後の課題
教科書	適宜示す。

担当者から一言	履修上の注意: ・教育実習参加者は、教員志望の意志が明確であり、教育実習予備登録及び本登録等の諸手続を完了していること。 ・教育実習に参加するためには、3年次修了までに教師論、教育原論、教育心理、教育の方法・技術、教科教育法Ⅰ・Ⅱ、生徒指導法及び教育相談の単位を修得しておかなければならない。 ・教育実習は、教育職員免許状取得上、不可欠なものである。欠席・遅刻・早退が許されないので、教育実習に専念できる態勢を整えておくこと。 ・事前指導への出席が不良の場合は実習への参加を認めない。また、事後指導に出席しない場合は単位を認めない。事前・事後指導の実施期日・場所は掲示で知らせる。
---------	--

授業コード	N0016		
授業科目名	教育実習Ⅱ(情報科)		
担当者名	新田直也(ニッタ ナオヤ)		
配当年次	4年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	本登録票に基づき事前登録		

講義の内容	教育実習は、教員になるための実地研修を行うことが目的であり、学生から教師への立場の大きな転換を経験する機会である。生徒を指導する立場に立つことによって、教師としての資質・力量が厳しく問われるので、真摯な態度でのぞんでほしい。
到達目標	1. 学校現場において、教師の仕事の一端がわかる。 2. 学校現場で生起することに対して、教員としてそれらを理解できるようになる。 3. 生徒指導及び生徒理解が実践の場で深まることができる。 4. 生徒の実態が千差万別であることや保護者の願いが理解できる。 5. 大学で学んだことを学校の実態に即して応用しなければならないことが実感できる。 6. 教員免許状に名実ともに近づいていくことが肌でわかる。
講義方法	参観、参加、教材研究、教材作成、学習指導案の作成、授業、評価など。実際に教育に関する各種の活動を行なう。
準備学習	教育実習までに、履修が義務付けられている諸科目を復習しておくこと。
成績評価	事前指導、事後指導、教育実習校からの実習評価報告書等をもとに総合的に評価する。
講義構成	1. 教育実習事前指導(学内) イ. 教育実習の意義・目的 オ. 学校現場の実際と教育実習の心得 ハ. 教材研究・教材解釈 ニ. 授業の方法と形態 ホ. 模擬授業と授業評価 ヘ. 生徒指導ほか 2. 教育実習(学外) 実習は観察、参加及び実地授業からなり、実習校の教育方針に沿っておこなわれる。実習校での指導助言を謙虚に受け入れ、望ましい教師としての自己形成につとめてほしい。実習時期は5月下旬から6月中旬(実習校の都合によっては9月頃)。 3. 教育実習事後指導(学内)

	イ. 授業実践の分析 ロ. 教育実習の反省と今後の課題
教科書	2010年度教職ガイドブック
その他	履修上の注意: ・教育実習参加者は、教員志望の意志が明確であり、教育実習予備登録及び本登録等の諸手続を完了していること。 ・教育実習に参加するためには、3年次修了までに教師論、教育原論、教育心理、教育の方法・技術、教科教育法Ⅰ・Ⅱ、生徒指導法及び教育相談の単位を修得しておかなければならない。 ・教育実習は、教育職員免許状取得上、不可欠なものである。欠席・遅刻・早退が許されないで、教育実習に専念できる態勢を整えておくこと。 ・事前指導への出席が不良の場合は実習への参加を認めない。また、事後指導に出席しない場合は単位を認めない。事前・事後指導の実施期日・場所は掲示で知らせる。

授業コード	N0141		
授業科目名	教育社会学(1クラス)(後)		
担当者名	古川 治(フルカワ オサム)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限

講義の内容	現代社会のなかで生起する教育現象を教育社会的に考察していくことを目的としている。その為には社会学および教育社会学がいかなる学問的な視座をもっているかを明らかにしたい。その後、現実の教育現象たとえば学校組織、教師の人間関係、生徒指導、不登校などの教育病理を取上げ、教育社会的に解明していく。同時にそうした教育現象に内包する問題の解決策についても言及する。
到達目標	教育社会学は、社会のなかで生起する事実としての教育現象を、実証的な手段で解明する学問といえる。教育についても様々な見解があるが、ここでは社会化(socialization)の一つとしてとらえ、その視点から考察していく。したがって受講生はこの講義を受けることにより、社会化としての教育現象を実証的に解明できる能力および、社会化過程における問題点を指摘できる能力を培うことができる
講義方法	講義及びグループ学習
準備学習	新聞等で報道される教育問題について、日頃から自分なりに考察する学習をしておくこと。
成績評価	出席状況、受講態度、学習指導案、模擬授業、レポート等により総合的に評価する。
講義構成	第1回:オリエンテーション ー講義の目的、内容、評価等についての確認ー 第2回:教育社会学とは何か ー教育社会学小史ー 第3回:教育社会学の方法と課題 第4回:現代の教育問題を見つめる ーKJ法による解明ー 第5回:家庭教育の役割 ー男の子・女の子、父親・母親ー 第6回:学校組織 ー企業の経営組織と比較してー 第7回:教師の人間関係 第8回:学校制度と戦後の教育改革 第9回:学校教育と生徒指導 ー逸脱と統制ー 第10回:学校教育と法律 ー国旗・国歌問題ー 第11回:教育病理Ⅰ ーさわがしい教室ー 第12回:教育病理Ⅱ ー不登校とひきこもりー 第13回:教育病理Ⅲ ー性的アイデンティティをめぐる問題ー 第14回:社会階層と教育 ー学歴の再生産過程ー 第15回:まとめ
教科書	プリント資料による

授業コード	N0142		
授業科目名	教育社会学(2クラス)(後)		
担当者名	古川 治(フルカワ オサム)		

配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
講義の内容	現代社会のなかで生起する教育現象を教育社会学的に考察していくことを目的としている。その為には社会学および教育社会学がいかなる学問的な視座をもっているかを明らかにしたい。その後、現実の教育現象たとえば学校組織、教師の人間関係、生徒指導、不登校などの教育病理を取上げ、教育社会学的に解明していく。同時にそうした教育現象に内包する問題の解決策についても言及する。		
到達目標	教育社会学は、社会のなかで生起する事実としての教育現象を、実証的な手段で解明する学問といえる。教育についても様々な見解があるが、ここでは社会化(socialization)の一つとしてとらえ、その視点から考察していく。したがって受講生はこの講義を受けることにより、社会化としての教育現象を実証的に解明できる能力および、社会化過程における問題点を指摘できる能力を培うことができる		
講義方法	講義及びグループ学習		
準備学習	新聞等で報道される教育問題について、日頃から自分なりに考察する学習をしておくこと。		
成績評価	出席状況、受講態度、学習指導案、模擬授業、レポート等により総合的に評価する。		
講義構成	第1回:オリエンテーションー講義の目的、内容、評価等についての確認ー 第2回:教育社会学とは何かー教育社会学小史ー 第3回:教育社会学の方法と課題 第4回:現代の教育問題を見つめるーKJ法による解明ー 第5回:家庭教育の役割ー男の子・女の子、父親・母親ー 第6回:学校組織ー企業の経営組織と比較してー 第7回:教師の人間関係 第8回:学校制度と戦後の教育改革 第9回:学校教育と生徒指導ー逸脱と統制ー 第10回:学校教育と法律ー国旗・国歌問題ー 第11回:教育病理Ⅰーさわがしい教室ー 第12回:教育病理Ⅱー不登校とひきこもりー 第13回:教育病理Ⅲー性的アイデンティティをめぐる問題ー 第14回:社会階層と教育ー学歴の再生産過程ー 第15回:まとめ		
教科書	プリント資料による		

授業コード	N0143		
授業科目名	教育社会学(3クラス)(後)		
担当者名	森 一郎(モリ イチロウ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限

講義の内容	教育社会学は、社会の中で生起する事実としての教育現象を、実証的な手段で解明する学問といえる。教育についても様々な見解があるが、ここでは社会化(socialization)の一つとしてとらえ、その視点から考察していく。 内容的には、教育社会学の基本的な考え方、用語の理解は無論のこと、担当者が長年教育現場(高校)に勤務していたこともあり、実際の学校現場で起こっている現象を取り上げ、考察していく。		
到達目標	社会化としての教育現象を実証的に解明できる能力および、社会化過程における問題点を指摘できる能力を培うことを目的としている。		
講義方法	主として講義形式。適宜ビデオなどの視聴覚教材も使用予定。		
準備学習	新聞等により、日々学校現場で起こっていることに興味をもって下さい。		
成績評価	出席状況、授業中のミニレポート、期末試験などによる総合評価。		
講義構成	1. オリエンテーションー講義の目的、内容、評価等についての確認ー 2. 教育社会学とは何かー教育社会学小史ー 3. 教育社会学の課題 4. 大人になるとはー自我のめばえー 5. 現代の家族問題 6. 「日本型しつけ」について考える 7. 組織としての学校		

	8. 学校教育と法律 9. 学校の中の問題行動 ―逸脱と統制― 10. 教師の社会学 11. 学校教育とジェンダー論 12. 学歴の社会学 13. 教育病理Ⅰ ―さわがしい教室― 14. 教育病理Ⅱ ―不登校とひきこもり― 15. まとめ ―受講生の今後に期待するもの―
教科書	特に使用しません。
参考書・資料	現代社会研究会編『現代社会と教育の視点』ミネルヴァ書房 加野芳正、藤村正司、浦田広朗編著『新説 教育社会学』玉川大学出版部 その他、講義中に指示。
講義関連事項	授業開始15分以降の入室は禁止する。
担当者から一言	授業で使ったルーズリーフ(ノート)を、授業の後半で一度提出してもらいます。
その他	1回目の授業は、成績評価方法も含めた重要な話があり、できる限り出席すること。

授業コード	N0211		
授業科目名	教育哲学(前)		
担当者名	上寺常和(カミデラ ツネカズ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限

講義の内容	<p>教育の意義、目的について考察し、方法、内容その他の教育領域との関わりを明確にして教育哲学・教育学の本質を明確にすることを目的にする。</p> <p>そのためには、教育学の体系的な発展を理解することが求められる。そこで、授業の初めの教講義は、教育学の体系を説明する。その後、現代の教育哲学・教育哲学の役割について考察する。さらに、現代の教育学と教育の問題について解釈する。</p> <p>現代性に注目して、ポスト・モダニズムの代表的な哲学者なかでもネオ・プラグマティストと自称するローティの哲学・教育哲学について、デュエイの教育哲学との関わりを通して探究する。</p> <p>学習指導要領の改訂にともなって、学校教育の変更が実施されることになった。その変革の原理は何か、またどのような変革がなされているのかということも解明する。プラグマティズムやネオ・プラグマティズムの教育理論、またシュタインの教育論について吟味することを通して、今後の教育学探究への道を示唆する試みを実施する。</p> <p>教育哲学の全体的傾向を理解し、現代教育の意義と目的を理解出来るように導くことを目的にする。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育哲学の歴史的系譜の理解 2. 教育哲学の現代の課題理解 3. 人間性と行動についての教育哲学考察
講義方法	<p>『デュエイ宗教論の射程』(北樹出版社)を使用、また配付資料を使って講義形式を基本に授業を展開するが、小グループでの話し合い、それに基づく各班の代表者による発表などを導入する。</p> <p>ときに、課題を提示するのでその課題をレポートしてもらおう。</p> <p>教室の状況によるが、一方通行の講義にならない工夫をするように心掛ける。しかし、講義形式を基本とするので、履修学生の積極的な授業参加に期待する。</p>
準備学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞やインターネットの教育関係記事は必ず読んでおくこと。 2. 教育関係古典書:ルソー・フレーベル・ペスタロッチなどの古典書は機会があれば必ず読んでおくこと。 3. ロックの『統治論』は音読することを薦める。 4. 授業中に紹介する著書は読むことを薦める。
成績評価	<p>毎回の出席(20%)、授業態度(グループ討論に参加する・発表する 20%)、課題提出(レポート作成 20%)それに試験(40%)これらを参考に総合的に評価する。課題提出は必ずすること。</p>
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実践的教育の歴史 2. 教育学の体系(哲学的教育学・経験主義的教育学) 3. 解釈学的教育学・集団主義教育学・フランクフルト学派の教育学 4. 社会と教育(教育基本法・学校教育法・新学習指導要領) 5. 社会的同化の陶冶と教育・教授 6. 行為の諸相と根本意志:教育的価値 7. 形式陶冶と習慣(衝動性)

	8. 宗教的経験と芸術的経験・道徳的経験 9. 教育学の自律と普遍性 10. 教育学の方法論と内容 11. 教育の相互作用と連続性(非連続性の主張) 12. ポスト・モダニズムと教育 13. 自然科学の成果と教育学 14. 現代の教育学の課題と解決のための取り組み 15. まとめ
教科書	上寺常和、『デューイ宗教論の射程』、北樹出版社、2010年。
参考書・資料	1. 上寺常和著、『デューイ教育学と民主主義の教育』、日本教育研究センター、1995年。 2. 上寺常和著、『デューイ教育学と現在・未来の教育』、日本教育研究センター、1996年。 3. S. エリオット・トーザ著、上寺常和訳、『K. D. ベニの社会的および教育的思想における権威概念』、日本教育研究センター、1998年。
講義関連事項	教育哲学を概略的に把握して、現代教育学・教育が理解出来るような基礎を構築するように心掛けて欲しい、そのためには関連のある著書を紹介するので努力して読んで欲しい。これらの教養は近い将来必ず身に付くことになる。教員の専門性が問われていることを認識する必要がある。
担当者から一言	課題は、あまり高度な内容は求めないが、基礎的基本的なものを要求することになるので、日常の教育的現象を調べよく分析して、関心を持って欲しいものである。できるだけ古典的な教育書、例えばルソーの『エミール』を読むことを求める。
その他	授業は、積極的な態度を必要としている。できる限り積極的に参加して欲しい。教育哲学は教育学の目的、本質に直接関わるので「教育を理解するために、しっかりした基盤を作る」という意欲を持って望む必要がある。

授業コード	N0191		
授業科目名	教育の方法・技術(1クラス)(前)		
担当者名	鳩貝耕一(ハトガイ コウイチ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	〔抽選科目〕申込方法については、時間表で確認すること		
オフィスアワー	随時(電子メールで事前に連絡してください)		

講義の内容	学習指導案の作成を通して、IT教材をどのように授業に活用すれば良いのかについて議論する。加えて、作成したIT教材を授業に生かすことができるよう、映像、画像、音楽、音声などのマルチメディア教材を活用するための基礎知識や教材コンテンツ開発の手法などについての講義・実習を行う。
到達目標	学習指導案の作成を通して、工夫したIT教材を取り入れた授業が構築できるようになることを目指す。さらに、授業において、映像、画像、音楽、音声など、どのようなマルチメディア教材をどういうふうにも活用すれば良いのかについての考察ができるようになることも目標の一つである。
講義方法	講義に加え、マルチメディア機器やコンピュータを用いた実習を通して、マルチメディア教材の開発法について学んでいく。また、具体的な授業内容を想定し、IT教材を生かした学習指導案を作成したあと、指導案の内容についての検討を行う。 グループ単位で授業を構築していき、最後に発表会を行う。発表会に向けての作業の際に、My KONAN上に提示された課題をこなしていき、成果物をWebページやPowerPoint教材として完成させ提出してもらう。
準備学習	できれば、教職課程の他の教科で学習指導案の作成方法について学んでいることが望ましいが、作成法については授業内でも簡単な解説を行う。
成績評価	提出物の評価に加え、出席およびプレゼンテーションや発表会での発表内容の評価を加味し、総合的に評価して成績とする。
講義構成	以下のような授業日程を予定しているが、変更もあり得る。 第1回 概要説明(指導案や指導過程の作成法を含む) 第2回 Webページ作成演習 第3回 IT授業事例検索演習(IT教材の様々な教育への活用事例研究) 第4回 IT授業事例評価の見直し、意見交換 第5回 授業計画の立案 第6回 授業計画の具体化 第7回 指導課程の完成

	第8回 授業計画のIT化、見直し 第9回 アニメーション教材作成演習 第10回 IT教材の設計、作成 第11回 IT教材作成 第12回 総仕上げ(授業内容についての全般的な検討) 第13回～第15回 発表会
教科書	教科書は用いない。教員のレジュメを中心に授業／実習を進める。
参考書・資料	適宜紹介する。
講義関連事項	情報教育研究センターのパソコン教室を使用して授業を行うので、受講人数に制限がある。
担当者から一言	本講座は実習が中心となるので、できるだけ欠席しないよう続けることが肝要である。また、授業時間外にも教材作成作業を行うなど、授業への積極的な参加態度を必要とする。

授業コード	N0192		
授業科目名	教育の方法・技術（2クラス）(前)		
担当者名	篠田有史(シノダ ユウジ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	〔抽選科目〕申込方法については、時間表で確認すること		

講義の内容	本講義では、自身でマルチメディア教材を構築し、授業で活用するための技術を修得する。 この目的を達成するため、既存のマルチメディア教材とその利用形態を調査し、どのような教材をどのように利用すべきかを検討する。得られた知見をもとに、講義計画を作成し、マルチメディア教材作成を実施する。なお、実習で作成する教材は、WebページやPowerPoint等の形式を予定している。
到達目標	本講義の到達目標は、以下の3つの全てを満足することである。 1. マルチメディア教材の持つメリットとデメリットを考察する力を持ち、今後登場するであろう様々なIT技術を活用する素養をもつことができる 2. 要求・需要をもとに、独自の指導案を設定できる 3. 指導案に従い、効果的なマルチメディア教材を作成できる
講義方法	本講義では、通常の講義形式に加え、コンピュータを利用した情報収集を実施する。 また、マルチメディア教材を作成する実習においては、グループワーク形式を用いる。
準備学習	興味がある科目の小・中学校向けの教育用途のテレビ番組を数回でよいので閲覧しておくのが好ましい。
成績評価	出欠状況、レポート、作成した教材、発表会の4点から総合的に評価を行う。
講義構成	以下の内容を予定している。 1. 指導案と指導過程の概略（第1回） 2. マルチメディア教材の事例調査と特徴把握（第2～3回） 3. ITを活用した指導案の作成（第4～5回） 4. マルチメディア教材の作成方法（第6～7回） 5. マルチメディア教材の開発（第8～11回） 6. 指導案と教材の発表会（第12～14回）
教科書	教科書は使用しない。教員が配布するレジュメを利用する。
参考書・資料	KUKINDSガイドブック 2010年度版、学術図書出版社
講義関連事項	本講義は、IT技術を活用し、効果的に授業を組み立てる方法に重点を置く。 よって、授業の進め方についての知見もあわせて深めることが好ましい。 この点から、教科教育法の科目を併せて履修するか、履修しておくのが好ましい。
担当者から一言	本講義は、実習要素を含むため、欠席せずに参加することが肝要である。 また、講義内で実施するグループワークは、教員に必要なコミュニケーションスキルを学ぶという側面もあるため、臆せず積極的に取り組んでほしい。

授業コード	N0193
-------	-------

授業科目名	教育の方法・技術（3クラス）(後)		
担当者名	鳩貝耕一(ハトガイ コウイチ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	〔抽選科目〕申込方法については、時間表で確認すること		
オフィスアワー	随時(電子メールで事前に連絡してください)		

講義の内容	学習指導案の作成を通して、IT教材をどのように授業に活用すれば良いのかについて議論する。加えて、作成したIT教材を授業に生かすことができるよう、映像、画像、音楽、音声などのマルチメディア教材を活用するための基礎知識や教材コンテンツ開発の手法などについての講義・実習を行う。
到達目標	学習指導案の作成を通して、工夫したIT教材を取り入れた授業が構築できるようになることを目指す。さらに、授業において、映像、画像、音楽、音声など、どのようなマルチメディア教材をどういうふうに使えば良いのかについての考察ができるようになることも目標の一つである。
講義方法	講義に加え、マルチメディア機器やコンピュータを用いた実習を通して、マルチメディア教材の開発法について学んでいく。また、具体的な授業内容を想定し、IT教材を生かした学習指導案を作成したあと、指導案の内容についての検討を行う。 グループ単位で授業を構築していき、最後に発表会を行う。発表会に向けての作業の際に、My KONAN上に提示された課題をこなしていき、成果物をWebページやPowerPoint教材として完成させ提出してもらう。
準備学習	できれば、教職課程の他の教科で学習指導案の作成方法について学んでいることが望ましいが、作成法については授業内でも簡単な解説を行う。
成績評価	提出物の評価に加え、出席およびプレゼンテーションや発表会での発表内容の評価を加味し、総合的に評価して成績とする。
講義構成	以下のような授業日程を予定しているが、変更もあり得る。 第1回 概要説明(指導案や指導過程の作成法を含む) 第2回 Webページ作成演習 第3回 IT授業事例検索演習(IT教材の様々な教育への活用事例研究) 第4回 IT授業事例評価の見直し、意見交換 第5回 授業計画の立案 第6回 授業計画の具体化 第7回 指導課程の完成 第8回 授業計画のIT化、見直し 第9回 アニメーション教材作成演習 第10回 IT教材の設計、作成 第11回 IT教材作成 第12回 総仕上げ(授業内容についての全般的な検討) 第13回～第15回 発表会
教科書	教科書は用いない。教員のレジメを中心に授業／実習を進める。
参考書・資料	適宜紹介する。
講義関連事項	情報教育研究センターのパソコン教室を使用して授業を行うので、受講人数に制限がある。
担当者から一言	本講座は実習が中心となるので、できるだけ欠席しないよう続けることが肝要である。また、授業時間外にも教材作成作業を行うなど、授業への積極的な参加態度を必要とする。

授業コード	N0194		
授業科目名	教育の方法・技術（4クラス）(後)		
担当者名	篠田有史(シノダ ユウジ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	〔抽選科目〕申込方法については、時間表で確認すること		

講義の内容	本講義では、自身でマルチメディア教材を構築し、授業で活用するための技術を修得する。この目的を達成するため、既存のマルチメディア教材とその利用形態を調査し、どのような教材をどのように利
-------	---

	用すべきかを検討する。得られた知見をもとに、講義計画を作成し、マルチメディア教材作成を実施する。なお、実習で作成する教材は、WebページやPowerPoint等の形式を予定している。
到達目標	本講義の到達目標は、以下の3つの全てを満足することである。 1. マルチメディア教材の持つメリットとデメリットを考察する力を持ち、今後登場するであろう様々なIT技術を活用する素養をもつことができる 2. 要求・需要をもとに、独自の指導案を設定できる 3. 指導案に従い、効果的なマルチメディア教材を作成できる
講義方法	本講義では、通常の講義形式に加え、コンピュータを利用した情報収集を実施する。 また、マルチメディア教材を作成する実習においては、グループワーク形式を用いる。
準備学習	興味がある科目の小・中学校向けの教育用途のテレビ番組を数回でよいので閲覧しておくのが好ましい。
成績評価	出欠状況、レポート、作成した教材、発表会の4点から総合的に評価を行う。
講義構成	以下の内容を予定している。 1. 指導案と指導過程の概略(第1回) 2. マルチメディア教材の事例調査と特徴把握(第2～3回) 3. ITを活用した指導案の作成(第4～5回) 4. マルチメディア教材の作成方法(第6～7回) 5. マルチメディア教材の開発(第8～11回) 6. 指導案と教材の発表会(第12～14回)
教科書	教科書は使用しない。教員が配布するレジュメを利用する。
参考書・資料	KUKINDSガイドブック 2010年度版、学術図書出版社
講義関連事項	本講義は、IT技術を活用し、効果的に授業を組み立てる方法に重点を置く。 よって、授業の進め方についての知見もあわせて深めることが好ましい。 この点から、教科教育法の科目を併せて履修するか、履修しておくのが好ましい。
担当者から一言	本講義は、実習要素を含むため、欠席せずに参加することが肝要である。 また、講義内で実施するグループワークは、教員に必要なコミュニケーションスキルを学ぶ、という側面もあるため、臆せず積極的に取り組んでほしい。

授業コード	N0121		
授業科目名	教職入門(教師論)(1クラス)(後)		
担当者名	橘 幸男(タチバナ ユキオ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	在室しているかぎり、いつでもどうぞ。		

講義の内容	<p>教職を目指す人たちの入門となる科目で1年次生向けである。教職課程を履修しようとする人は、この科目を真っ先に受講して、教職への基礎・基本となる事柄を学んでほしい。</p> <p>現在は教育、学校、教員に対して厳しい目が注がれている。教育の仕事に携わることは苦勞も多いが、喜びはそれ以上に大きい。教員の姿勢や能力は生徒に敏感に伝わるものであるから、教員は不断に資質・能力の向上に努めなければならない。教育は息の長い仕事である。すぐに効果が現れるとは限らないことに取り組む地道な努力が必要である。</p> <p>教員になるのは簡単なことではないが、自分が教員に向いているかどうかを確かめた上で、教員になることを決意したのならば、その目標に向かって研鑽を積んでほしい。</p>
到達目標	<p>①教員の仕事の全体像をつかみ、教職の意義、教員の役割、職務内容などを実践的に理解する。</p> <p>②教員としての資質・能力の基礎を形成する。</p>
講義方法	講義の他に、演習(文章表現、口頭発表、討論など)を可能な限り多く取り入れる。
準備学習	甲南大学「2010年度 教職ガイドブック」を通読しておくこと。 教育に関する本(新書版程度のもの)を数冊は読んでおくこと。 教育に関するニュースを新聞などから収集しておくこと。
成績評価	欠席は、3回以内にとどめること。 課題・レポート等は、すべて提出すること。 定期試験は、60パーセント以上を得点すること。(試験は、用紙2枚にわたり、すべて文章表現である。) 以上の3項を満たせば単位修得を認める。

講義構成	<p>第1回 教員を目指す姿勢 第2回 教員に必要な資質・能力 第3回 教員の使命と心構え 第4回 教員の勤務と服務(1) 第5回 教員の勤務と服務(2) 第6回 教員の研修 第7回 教育に関する法令の基礎 第8回 学校教育の目的と機能 第9回 学校の組織と運営 第10回 学習指導要領 第11回 教科指導の課題 第12回 学級担任(ホームルーム担任)の職務 第13回 生徒理解と生徒指導 第14回 教育実習と教員採用試験 第15回 試験</p> <p>なお、必要に応じて、随時、教育に関するニュース等を探り入れる。</p>
教科書	<p>甲南大学「2010年度 教職ガイドブック」 文部科学省「中学校学習指導要領」(東山書房、244円) 文部科学省「高等学校学習指導要領」(東山書房、588円)</p>
参考書・資料	<p>資料は、ほぼ毎回到わたって配布する。 その他の参考書・資料は、講義の中で紹介・指示をする。</p>
講義関連事項	<p>欠席連絡・面談予約などは、tatibana@center.konan-u.ac.jp へ。</p>

担当者から一言	<p>教職課程のいろいろな科目の中で最初に受講する科目である。受講を後回しにしてはならない。 教員を目指す者には、基本的な生活習慣や、職務への使命感・責任感が不可欠である。出席状況と受講態度とは基本的な生活習慣のあらわれであって、教員を目指す者の基本的な資質に関わることでありと認識してほしい。</p>
その他	<p>教員を目指して志気を高めている受講者が迷惑に思う行為(遅刻・私語・居眠り等々)に対しては、受講を遠慮するよう促すこともある。他人に迷惑をかけなければよいというものではない。他人の心に悪影響を及ぼすような行為も排除したいと考えている。携帯電話や飲食物を机の上に置くこともやめてほしい。</p>

授業コード	N0122		
授業科目名	教職入門(教師論) (2クラス)(後)		
担当者名	藤井一亮(フジイ カズアキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	月曜日4限(14:40~16:10)		

講義の内容	<p>教職の意義や教員の使命・資質、その基本的な性格や社会的使命などについて考えていく。教師とはいったいどのような仕事なのか、またその役割等について理解を深める。具体的な職務内容である教科指導、生徒指導、進路指導、学級経営、学校経営等、また教育に関する基本的な法令等について実践的に学び、「職業人としての教員」の資質を高め、能力の涵養を図る。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員としての資質・能力の基礎を形成する。 2. 教師の歴史的な理解が深まる。教職がどのようにして職業として成立したかがわかる。 3. 学校における教員の職務内容についての認識が高まる。 4. 職業人としての教員の研修や服務についての理解が深まる。
講義方法	<p>講義・演習及び課題学習による。</p>
準備学習	<p>教科書の予習及び復習をしておくこと。 日頃から、新聞等のメディアで取り上げられる教育問題に注意しておくこと。 教育思想に関する古典に親しむこと。(たとえば、ルソーの「エミール」など)</p>
成績評価	<p>受講態度(積極的な参加・関与度)、課題、レポート、期末試験等を総合的に判断して評価する。 なお、原則として、評価は10回以上の出席がなければ与えられない。</p>
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(講義の目的、内容、方法及び評価についての確認等) 2. 教員養成と教職課程 3. 教職とその適性

	4. 教職の意義と教員の使命・心構え 5. 教員に必要な資質・能力 6. 教員の勤務と服務規程 7. 職業人(プロ)としての形成と研修 8. 教育に関する基礎的な法令について 9. 学校の組織と運営 10. 学習指導要領 11. 教科指導、生徒指導と教員 12. 学級経営と学校経営 13. 保護者・地域・関係機関と教員 14. 教育実習と教員の採用について
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領」 文部科学省「高等学校学習指導要領」 ミネルヴァ書房「教職論 第2版 一教員を志すすべてのひとへ」 教職問題研究会編
講義関連事項	本科目は、教職課程で学ぼうとする学生、すなわち教員を目指す学生のための基本的な学習態度、努力の方向性を明らかにするものである。教員免許状を取得するための諸科目の基盤となるガイダンス的なものである。1年次に受講し、教職への意欲を高めて欲しい。
担当者から一言	本講義において、教職の全体像を把握し、自らが職業人としての教員の適格性を有しているかどうかを判断してください。そのうえで、教員になる事を決意した人は、実際に、教職に就くことは簡単な事ではないが、初志貫徹の思いを持って努力を続けてください。

授業コード	N0123		
授業科目名	教職入門(教師論) (3クラス)(後)		
担当者名	橘 幸男(タチバナ ユキオ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	在室しているかぎり、いつでもどうぞ。		

講義の内容	教職を目指す人たちの入門となる科目で1年次生向けである。教職課程を履修しようとする人は、この科目を真っ先に受講して、教職への基礎・基本となる事柄を学んでほしい。 現在は教育、学校、教員に対して厳しい目が注がれている。教育の仕事に携わることは苦労も多いが、喜びはそれ以上に大きい。教員の姿勢や能力は生徒に敏感に伝わるものであるから、教員は不断に資質・能力の向上に努めなければならない。教育は息の長い仕事である。すぐに効果が現れるとは限らないことに取り組む地道な努力が必要である。 教員になるのは簡単なことではないが、自分が教員に向いているかどうかを確かめた上で、教員になることを決意したのならば、その目標に向かって研鑽を積んでいってほしい。
到達目標	①教員の仕事の全体像をつかみ、教職の意義、教員の役割、職務内容などを実践的に理解する。 ②教員としての資質・能力の基礎を形成する。
講義方法	講義の他に、演習(文章表現、口頭発表、討論など)を可能な限り多く取り入れる。
準備学習	甲南大学「2010年度 教職ガイドブック」を通読しておくこと。 教育に関する本(新書版程度のもの)を数冊は読んでおくこと。 教育に関するニュースを新聞などから収集しておくこと。
成績評価	欠席は、3回以内にとどめること。 課題・レポート等は、すべて提出すること。 定期試験は、60パーセント以上を得点すること。(試験は、用紙2枚にわたり、すべて文章表現である。) 以上の3項を満たせば単位修得を認める。
講義構成	第1回 教員を目指す姿勢 第2回 教員に必要な資質・能力 第3回 教員の使命と心構え 第4回 教員の勤務とサービス(1) 第5回 教員の勤務とサービス(2) 第6回 教員の研修 第7回 教育に関する法令の基礎 第8回 学校教育の目的と機能 第9回 学校の組織と運営

	第10回 学習指導要領 第11回 教科指導の課題 第12回 学級担任(ホームルーム担任)の職務 第13回 生徒理解と生徒指導 第14回 教育実習と教員採用試験 第15回 試験 なお、必要に応じて、随時、教育に関するニュース等を取り入れる。
教科書	甲南大学「2010年度 教職ガイドブック」 文部科学省「中学校学習指導要領」(東山書房、244円) 文部科学省「高等学校学習指導要領」(東山書房、588円)
参考書・資料	資料は、ほぼ毎回到わたって配布する。 その他の参考書・資料は、講義の中で紹介・指示をする。
講義関連事項	欠席連絡・面談予約などは、tatibana@center.konan-u.ac.jp へ。
担当者から一言	教職課程のいろいろな科目の中で最初に受講する科目である。受講を後回しにしてはならない。 教員を目指す者には、基本的な生活習慣や、職務への使命感・責任感が不可欠である。出席状況と受講態度とは基本的な生活習慣のあらわれであって、教員を目指す者の基本的な資質に関わることでありと認識してほしい。
その他	教員を目指して志気を高めている受講者が迷惑に思う行為(遅刻・私語・居眠り等々)に対しては、受講を遠慮するよう促すこともある。他人に迷惑をかけなければよいというものではない。他人の心に悪影響を及ぼすような行為も排除したいと考えている。携帯電話や飲食物を机の上に置くこともやめてほしい。

授業コード	N0061		
授業科目名	公民科教育法I(教科教育法I(公民科))(1クラス)(前)		
担当者名	森 一郎(モリ イチロウ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	この講義では、まず理論的な基礎を培うため、学習指導要領の理解から始める。その後は高等学校公民科の各科目(現代社会、倫理、政治経済)に分けて実際の授業プリントも使用しながら、授業の工夫や方法について学んでいく。最後は受講者による模擬授業により実践的な授業力を育成していく。
到達目標	受講生は、この講義を受けることにより、学習指導案(教案)の作成を始めとして、実際の授業展開及び生徒の学習意欲を高める授業の工夫など、実践的な能力を身に付けることができる。
講義方法	講義のほか、受講生による学習指導案(教案)の作成、模擬授業等の演習を行なう。
準備学習	教職教育センターで、高等学校の実際の教科書をよく見ておいて下さい。
成績評価	出席状況、学習指導案、模擬授業、レポート(または期末試験)等を総合的に判断して評価する。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(講義の目的、内容、進め方、評価の方法などについての確認) 2. 学習指導要領からみた教科の目標 -「公民」とは何か- 3. 高校「現代社会」分野における授業の実際とその工夫(Ⅰ) 4. 高校「現代社会」分野における授業の実際とその工夫(Ⅱ) 5. 高校「倫理」分野における授業の実際とその工夫(Ⅰ) 6. 高校「倫理」分野における授業の実際とその工夫(Ⅱ) 7. 高校「政治経済」分野における授業の実際とその工夫(Ⅰ) 8. 高校「政治経済」分野における授業の実際とその工夫(Ⅱ) 9. 学習指導案(教案)の作成(Ⅰ) 10. 学習指導案(教案)の作成(Ⅱ) 11. 模擬授業(Ⅰ) 12. 模擬授業(Ⅱ) 13. 模擬授業(Ⅲ) 14. まとめ(受講生の今後に期待するもの)
教科書	特に使用しません。
参考書・資料	<ul style="list-style-type: none"> ・『高等学校学習指導要領解説 公民編』実教出版(現行課程の分です) ・日本公民教育学会編『テキストブック 中学校・高等学校公民教育』第一学習社 ・高等学校公民科の教科書 ・毎回、授業時に資料プリントを配布する。

講義関連事項	授業開始15分以降の入室は禁止する。
担当者から一言	配布されるプリントは、必ずファイルしておくこと。
その他	1回目の授業は、成績評価方法も含めた重要な話があり、できる限り出席すること。

授業コード	N0062		
授業科目名	公民科教育法I(教科教育法I(公民科))(2クラス)(前)		
担当者名	古川 治(フルカワ オサム)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜3限

講義の内容	教科教育法 I〔社会科〕、教科教育法 I〔公民科〕で学ぶ教科の目標、内容及び指導方法を基礎として、実際に授業を計画し、教材研究をすすめ、学習指導案を作成し、授業を行い、中学校社会科、高等学校公民科の授業実践に求められる資質の向上と能力の育成を図る。
到達目標	広い視野に立ち、現代社会について主体的に考察できるようになる。 国際社会に生きる民主的な国家社会の形成者としての公民的資質を養うことができる。
講義方法	講義及び模擬授業
準備学習	日頃から国内外の政治的・経済的事象に関するニュースについて熟読しておく。
成績評価	出席状況、受講態度、学習指導案、模擬授業、レポート等により総合的に評価する。
講義構成	第1回学習指導要領中学校社会科公民科の目標及び内容について 第2回学習指導要領高等学校社会科公民科の目標及び内容について 第3回教育基本法と社会科・公民科における公民養育 第4回公民的資質について 第5回模擬授業の説明と登録(グループ分けとテーマ設定) 第6回教材研究の意義と方法(1) 第7回教材研究の意義と方法(2) 第8回学習指導案の作成(1) 第9回学習指導案(2) 第10回学習指導案に基づく模擬授業(1) 第11回学習指導案に基づく模擬授業(2) 第12回学習指導案に基づく模擬授業(3) 第13回学習指導案に基づく模擬授業(4) 第14回学習指導案に基づく模擬授業(5) 第15回授業分析とその評価
教科書	プリント資料による

授業コード	N0021		
授業科目名	国語科教育法I(教科教育法I(国語科))(前)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	水月曜日 2時間目		

講義の内容	テキストを手がかりとして、国語科教育の目標・課題、教材研究や指導案作成の方法について、理論面を講じるとともに、グループ学習などによって、具体的に学習することとする。
到達目標	教材研究をする。
講義方法	講義、グループ学習、発表などによる。
準備学習	設定した教材についての調べを行う。 教材研究について、前もってグループで意見を交換する。
成績評価	レポートを主として、総合的に評価する。教育実習に向かう準備を兼ねているので、出席は重視する。

講義構成	<p>国語科教育の内容、教授・学習の展開、教具、内容別指導法、教材研究、評価、教師と教育活動、学習指導案の作成などについて、テキスト、配布プリントなどをもとに講義、個別作業、グループ学習などの方法で授業を進める。</p> <p>最初の授業の際に、学習活動の具体的な計画・注意事項などを示す。</p> <p>半年間の講義だけでは、多方面にわたる国語科の教育活動について学習するには授業時間が不足するので、併行してテキストについて自学自習しておいてもらいたい。</p> <p>教室では、グループ学習による教材研究に力を入れ、予習・復習および口頭発表を課す。</p>
教科書	『新編 中学校高等学校 国語科教育法』 おうふう 野地潤家・湊吉正 編 2100円
参考書・資料	日本語日本文学科の共同研究室には国語教師となるための、教科書など、学習指導書など実的な書籍も多数、購入されているので、読み慣れておくこと。 甲南大学図書館、大阪府立図書館、兵庫県立図書館などなどの使用にも慣れておくこと
講義関連事項	教職科目としての本科目の他に、日本語日本文学科専門教育科目として、「教材研究」などが開設されている。
担当者から一言	教育者になるのだ、というしっかりした自覚のもとに、この科目を受講してもらいたい。

授業コード	N0022		
授業科目名	国語科教育法II(教科教育法II(国語科))(後)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	適宜。なるべく前もって連絡すること		

講義の内容	テキストを手がかりとして、国語科教育の目標・課題、教材研究や指導案作成の方法について、理論面を講じるとともに、グループ学習などによって、具体的に学習することとする。
到達目標	学習指導案の作成と模擬授業
講義方法	講義、グループ学習、発表などによる。
準備学習	教材研究、模擬授業のリハーサル。
成績評価	レポートを主として、総合的に評価する。教育実習に向かう準備を兼ねているので、出席は重視する。
講義構成	<p>模擬授業を中心に そのための教材研究、学習指導案(略案、および正案)の作成などについて、 作業を進めながら学習してゆく。</p> <p>なるべく、1人あたり、各1時間分(45分～50分)の模擬授業を実行するようにしたい。</p>
教科書	『新編 中学校高等学校 国語科教育法』 野地潤家・湊吉正 編 2100円
参考書・資料	日本語日本文学科の共同研究室には国語教師となるための、教科書など、学習指導書など実的な書籍も多数、購入されているので、読み慣れておくこと。 甲南大学図書館、大阪府立図書館、兵庫県立図書館などなどの使用にも慣れておくこと
講義関連事項	教職科目としての本科目の他に、日本語日本文学科専門教育科目として、「教材研究」などが開設されている。
担当者から一言	教育者になるのだ、というしっかりした自覚のもとに、この科目を受講してもらいたい。

授業コード	N0081		
授業科目名	社会・公民科教育法II(教科教育法II(社会・公民科))(1クラス)(後)		
担当者名	藤井一亮(フジイ カズアキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	月曜日4限(14:40～16:10)		

講義の内容	教科教育法Ⅰ(社会科)及び教科教育法Ⅰ(公民科)で学んだ教科の目標、内容及び指導方法を基礎として、実際に授業を計画し、教材研究を深め、学習指導案を作成、検討して、実地に模擬授業を行う。中学校社会科及び高等学校公民科の授業において具体的に求められる技能や方法を実践的に取り扱い、学校現場に通じる資質の向上と能力の育成を図ることを目的とする。
到達目標	1. 教科科目の全体像を描きながら、具体的な教材研究の方法が身につく。 2. 理論に裏打ちされた実践的な学習指導案が作成できるようになる。 3. 学校現場で求められている授業における技能等の向上が図られる。
講義方法	前半は、学習指導要領に示された、社会・公民科についての特色、実践の現状及び課題等について、解説する。後半はそれに基づいて、各自学習指導案を作成し、模擬授業を行い、相互批判と改善への具体的な方略を探る。
準備学習	本講義は教科教育法Ⅰの履修の上に、教科教育法Ⅱ(社会・公民科)を学ぶものであるため、当然、中学校社会科、高等学校公民科の教科書レベルの内容把握を前提としている。したがって、模擬授業を行うに当たっては、各自、その内容について、より深く教材を研究することが求められる。
成績評価	受講態度(積極的な参加度・関与度)、学習指導案、模擬授業及ディスカッション、レポート、期末試験等を総合的に判断して評価する
講義構成	1. 学習指導要領社会科の目標及び内容についての確認 2. 学習指導要領公民科の目標及び内容についての確認 3. 社会科の教育課程の変遷について 4. 公民的資質について 5. 模擬授業の説明と登録について ーグループ分けとテーマ設定ー 6. 教材研究の意義と方法 7. 学習指導案の作成 8. 模擬授業の実践と授業研究 9. 模擬授業の実践と授業研究 10. 模擬授業の実践と授業研究 11. 模擬授業の実践と授業研究 12. 模擬授業の実践と授業研究 13. 模擬授業の実践と授業研究 14. 総括(受講生の今後に望むもの)
教科書	「高等学校学習指導要領 解説 公民編」文部科学省 「中学校学習指導要領 解説 社会科編」文部科学省
参考書・資料	「中等社会諸教科教育法改訂版」学芸図書株式会社
講義関連事項	受講については、中学校社会科、高等学校公民科の教師として必要な知識・理解が前提とされるので、各自で学習しておくこと。
担当者から一言	自分が、いま、教壇に立って黒板を背に、生徒と対面して授業をしていることをイメージして授業に参加してください。

授業コード	N0082		
授業科目名	社会・公民科教育法Ⅱ(教科教育法Ⅱ(社会・公民科))(2クラス)(後)		
担当者名	藤井一光(フジイ カズアキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜3限
オフィスアワー	月曜日4限(14:40~16:10)		

講義の内容	教科教育法Ⅰ(社会科)及び教科教育法Ⅰ(公民科)で学んだ教科の目標、内容及び指導方法を基礎として、実際に授業を計画し、教材研究を深め、学習指導案を作成、検討して、実地に模擬授業を行う。中学校社会科及び高等学校公民科の授業において具体的に求められる技能や方法を実践的に取り扱い、学校現場に通じる資質の向上と能力の育成を図ることを目的とする。
到達目標	1. 教科科目の全体像を描きながら、具体的な教材研究の方法が身につく。 2. 理論に裏打ちされた実践的な学習指導案が作成できるようになる。 3. 学校現場で求められている授業における技能等の向上が図られる。
講義方法	前半は、学習指導要領に示された、社会・公民科についての特色、実践の現状及び課題等について、解説する。後半はそれに基づいて、各自学習指導案を作成し、模擬授業を行い、相互批判と改善への具体的な方略を探る。

	探る。
準備学習	本講義は教科教育法Ⅰの履修の上に、教科教育方法Ⅱ(社会・公民科)を学ぶものであるため、当然、中学校社会科、高等学校公民科の教科書レベルの内容把握を前提としている。したがって、模擬授業を行うに当たっては、各自、その内容について、より深く教材を研究することが求められる。
成績評価	受講態度(積極的な参加度・関与度)、学習指導案、模擬授業及ディスカッション、レポート、期末試験等を総合的に判断して評価する
講義構成	1. 学習指導要領社会科の目標及び内容についての確認 2. 学習指導要領公民科の目標及び内容についての確認 3. 社会科の教育課程の変遷について 4. 公民的資質について 5. 模擬授業の説明と登録について ーグループ分けとテーマ設定ー 6. 教材研究の意義と方法 7. 学習指導案の作成 8. 模擬授業の実践と授業研究 9. 模擬授業の実践と授業研究 10. 模擬授業の実践と授業研究 11. 模擬授業の実践と授業研究 12. 模擬授業の実践と授業研究 13. 模擬授業の実践と授業研究 14. 総括(受講生の今後に望むもの)
教科書	「高等学校学習指導要領 解説 公民編」文部科学省 「中学校学習指導要領 解説 社会科編」文部科学省
参考書・資料	「中等社会諸教科教育法改訂版」学芸図書株式会社
講義関連事項	受講については、中学校社会科、高等学校公民科の教師として必要な知識・理解が前提とされるので、各自で学習しておくこと。
担当者から一言	自分が、いま、教壇に立って黒板を背に、生徒と対面して授業をしていることをイメージして授業に参加してください。

授業コード	N0071		
授業科目名	社会・地理歴史科教育法Ⅱ(教科教育法Ⅱ(社会・地歴))(1クラス)(後)		
担当者名	藤井一亮(フジイ カズアキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	月曜日4限(14:40~16:10)		

講義の内容	教科教育法Ⅰ(社会科)及び教科教育法Ⅰ(地理歴史科)で学んだ教科の目標、内容及び指導方法を基礎として、実際に授業を計画し、教材研究を深め、学習指導案を作成、検討して、実際に模擬授業を行う。中学校社会科及び高等学校地理歴史科の授業において具体的に求められる技能や方法を実践的に取り扱い、学校現場に通じる資質の向上と能力の育成を図ることを目的とする。
到達目標	1. 教科科目の全体像を描きながら、具体的な教材研究の方法が身につく。 2. 理論に裏打ちされた実践的な学習指導案が作成できるようになる。 3. 学校現場で求められている授業における技能等の向上が図られる。
講義方法	前半は、学習指導要領に示された、社会・地理歴史科についての特色、実践の現状及び課題等について、解説する。後半はそれに基づいて、各自学習指導案を作成し、模擬授業を行い、相互批判と改善への具体的な方略を探る。
準備学習	本講義は教科教育法Ⅰの履修の上に、教科教育方法Ⅱ(社会・地理歴史科)を学ぶものであるため、当然、中学校社会科、高等学校地理歴史科の教科書レベルの内容把握を前提としている。したがって、模擬授業を行うに当たっては、各自、その内容について、より深く教材を研究することが求められる。
成績評価	受講態度(積極的な参加・関与度)、学習指導案、模擬授業及びディスカッション、レポート、期末試験等を総合的に判断して評価する。
講義構成	1. 学習指導要領社会科の目標及び内容についての確認 2. 学習指導要領地理歴史科の目標及び内容についての確認 3. 社会科の教育課程の変遷について 4. 歴史教育を見る視点について

	5. 模擬授業の説明と登録について ―グループ分けとテーマ設定― 6. 教材研究の意義と方法 7. 学習指導案の作成 8. 模擬授業の実践と授業研究 9. 模擬授業の実践と授業研究 10. 模擬授業の実践と授業研究 11. 模擬授業の実践と授業研究 12. 模擬授業の実践と授業研究 13. 模擬授業の実践と授業研究 14. 総括(受講生の今後に望むもの)
教科書	「高等学校学習指導要領 解説 地理歴史編」文部科学省 「中学校学習指導要領 解説 社会科編」文部科学省
参考書・資料	「中等社会諸教科教育法改訂版」学芸図書株式会社
講義関連事項	中学校社会科、高等学校地歴科の教師として必要な知識・理解は講義の前提とされるので、各自で学習しておくこと。
担当者から一言	自分が、いま、教壇に立って黒板を背に、生徒と対面して授業をしていることをイメージして授業に参加してください。

授業コード	N0072		
授業科目名	社会・地理歴史科教育法II(教科教育法II(社会・地歴))(2クラス)(後)		
担当者名	藤井一 亮(フジイ カズアキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜1限
オフィスアワー	月曜日4限(14:40~16:10)		

講義の内容	教科教育法 I (社会科)及び教科教育法 I (地理歴史科)で学んだ教科の目標、内容及び指導方法を基礎として、実際に授業を計画し、教材研究を深め、学習指導案を作成、検討して、実地に模擬授業を行う。中学校社会科及び高等学校地理歴史科の授業において具体的に求められる技能や方法を実践的に取り扱い、学校現場に通じる資質の向上と能力の育成を図ることを目的とする。
到達目標	1. 教科科目の全体像を描きながら、具体的な教材研究の方法が身につく。 2. 理論に裏打ちされた実践的な学習指導案が作成できるようになる。 3. 学校現場で求められている授業における技能等の向上が図られる。
講義方法	前半は、学習指導要領に示された、社会・地理歴史科についての特色、実践の現状及び課題等について、解説する。後半はそれに基づいて、各自学習指導案を作成し、模擬授業を行い、相互批判と改善への具体的な方略を探る。
準備学習	本講義は教科教育法 I の履修の上に、教科教育方法 II (社会・地理歴史科)を学ぶものであるため、当然、中学校社会科、高等学校地理歴史科の教科書レベルの内容把握を前提としている。したがって、模擬授業を行うに当たっては、各自、その内容について、より深く教材を研究をすることが求められる。
成績評価	受講態度(積極的な参加・関与度)、学習指導案、模擬授業及びディスカッション、レポート、期末試験等を総合的に判断して評価する。
講義構成	1. 学習指導要領社会科の目標及び内容についての確認 2. 学習指導要領地理歴史科の目標及び内容についての確認 3. 社会科の教育課程の変遷について 4. 歴史教育を見る視点について 5. 模擬授業の説明と登録について ―グループ分けとテーマ設定― 6. 教材研究の意義と方法 7. 学習指導案の作成 8. 模擬授業の実践と授業研究 9. 模擬授業の実践と授業研究 10. 模擬授業の実践と授業研究 11. 模擬授業の実践と授業研究 12. 模擬授業の実践と授業研究 13. 模擬授業の実践と授業研究 14. 総括(受講生の今後に望むもの)

教科書	「高等学校学習指導要領 解説 地理歴史編」文部科学省 「中学校学習指導要領 解説 社会科編」文部科学省
参考書・資料	「中等社会諸教科教育法改訂版」学芸図書株式会社
講義関連事項	中学校社会科、高等学校地理歴史科の教師として必要な知識・理解は受講の前提とされるので、各自で学習しておくこと。
担当者から一言	自分が、いま、教壇に立って黒板を背に、生徒と対面して授業をしていることをイメージして授業に参加してください。

授業コード	N0041		
授業科目名	社会科教育法I(教科教育法I(社会科))(1クラス)(前)		
担当者名	森 一郎(モリ イチロウ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限

講義の内容	この講義では、まず理論的な基礎を培うため学習指導要領の理解から始める。その後は中学校社会科の各分野(地理、歴史、公民)に分けて実際の授業プリントも使用しながら、授業の工夫や方法について学んでいく。最後は受講者による模擬授業により実践的な授業力を育成していく。
到達目標	受講生は、この講義を受けることにより、学習指導案(教案)の作成を始めとして、実際の授業展開及び生徒の学習意欲を高める授業の工夫など、実践的な能力を身に付けることができる。
講義方法	講義のほか、受講者による学習指導案(教案)の作成、模擬授業等の演習を行なう。
準備学習	教職教育センターで実際の教科書をよく見ておいて下さい。
成績評価	出席状況、学習指導案、模擬授業、レポート(又は期末試験)等を総合的に判断して評価する。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(講義の目的、内容、進め方、評価の方法などについての確認) 2. 「公民」とは何か ー学習指導要領による理解ー 3. 生徒の学習意欲を高める授業の工夫について 4. 授業展開の方法ー授業プリントを例としてー 5. 中学校地理的分野における授業の実際とその工夫 6. 中学校歴史的分野における授業の実際とその工夫 7. 中学校公民的分野における授業の実際とその工夫 8. 学習指導案(教案)の作成 9. 中学校社会科を総合的学習との関連で考える(Ⅰ) 10. 中学校社会科を総合的学習との関連で考える(Ⅱ) 11. 中学校社会科を総合的学習との関連で考える(Ⅲ) 12. 模擬授業(Ⅰ) 13. 模擬授業(Ⅱ) 14. 模擬授業(Ⅲ) 15. まとめ(受講生の今後に期待するもの)
教科書	特に使用しません。
参考書・資料	<ul style="list-style-type: none"> ・『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版、平成20年9月発行 ・中学校社会科の教科書 ・毎回、授業時に資料プリントを配布する。
講義関連事項	授業開始後、15分以降の入室は認めない。
担当者から一言	配布されるプリントは、必ずファイルしておくこと。
その他	1回目の授業は、成績評価方法も含めた重要な話があり、できる限り出席すること。

授業コード	N0042		
授業科目名	社会科教育法I(教科教育法I(社会科))(2クラス)(前)		
担当者名	古川 治(フルカワ オサム)		
配当年次	3年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜1限
講義の内容	中学校学習指導要領をふまえて、社会科の目標と内容及び目標達成のための学習指導法について学ぶ。学校現場での具体的な学習指導を事例として授業の有機的な構造を探る。実際に授業を計画し、自ら学習指導案を作成することによって、社会科の授業構築の実践的な能力を身につける。		
到達目標	社会に関する関心を高め、多面的に考察し、国土と歴史への理解と愛情を深め、公民として基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的國家社会の形成者としての公民的資質の基礎的事項を養う。		
講義方法	講義及び模擬授業		
準備学習	「中学校学習指導要領」文部科学省〔東山書房〕「中学校学習指導要領解説社会」〔日本文教出版〕		
成績評価	出席状況、受講態度、学習指導案、模擬授業、レポート等により総合的に評価する。		
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(講義の目的、内容、方法及び評価についての確認)と社会科教師に求められているもの 2. 社会科の成立と推移 3. 学習指導要領における「公民」とは何か 4. 中学校学習指導要領と社会科の変遷 5. 中学校地理的分野の目標と内容 6. 中学校歴史的分野の目標と内容 7. 中学校公民的分野の目標と内容 8. 社会科学習指導法 9. 社会科指導計画の作成 10. 学習指導案の作成 11. 学習指導案に基づく模擬授業(1) 12. 学習指導案に基づく模擬授業(2) 13. 学習指導案に基づく模擬授業(3) 14. 学習指導案に基づく模擬授業(4) 15. まとめ(受講生の今後を期待するもの) 		
教科書	「中学校学習指導要領」文部科学省〔東山書房〕「中学校学習指導要領解説社会」〔日本文教出版〕		
参考書・資料	講義の中で紹介・指示をする。		
担当者から一言	自分が、今、教壇にたっていることをイメージして授業に参加してください。		

授業コード	N0111		
授業科目名	情報科教育法I(教科教育法I(情報科))(集中)		
担当者名	野中陽一(ノナカ ヨウイチ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
講義の内容	<p>高等学校における普通教科「情報」は、(1)情報化の進展の中でコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用し主体的に情報を選択・処理・発信する能力の養成、(2)情報化の進展が人間や社会に及ぼす影響を理解し、情報社会に参加する上での望ましい態度を身に付け健全な社会の発展に寄与することのできる識見の涵養、および(3)情報及び情報手段を活用するための知識や技能の定着、を指導して行くことの必要性から創設された。</p> <p>また、高等学校における専門教科「情報」は、近年の想像を越える規模・速度で進展しつつある高度情報通信社会にあつて特にソフトウェアに関する高度な情報技術者の育成が重要な課題となる中で、高等学校段階においても情報分野に興味・関心をもつ若者に情報科学の基礎など情報を扱う上での基礎的・基本的な内容を学習するとともに、情報メディアを駆使し実習を体験させる場を提供することがきわめて重要になっていることに則して創設された。</p> <p>教科教育法I(情報科)においては、上記の趣旨、目的にそつて設置された普通教科「情報」および専門教科「情報」について、それぞれの教科の科目構成と内容、両教科相互の関連、および情報科教育の指導理論について理解する。</p>		
到達目標	普通教科「情報」および専門教科「情報」について、それぞれの教科の科目構成と内容、両教科相互の関連、および情報科教育の指導の在り方について理解する。		
講義方法	講義、グループ学習、個別学習を組み合わせ、プレゼンテーションやディスカッションも行う予定である。		
準備学習	高等学校で受講した教科「情報」の教科書を読み直し、授業内容や方法を想起しておくこと。		
成績評価	授業の中で行う課題、レポート等を総合的に評価する。授業への積極的な参加態度を高く評価する。		

講義構成	教科教育法I(情報科)では次の事項を扱う。 (1)高等学校における情報教育の目的と意義 (2)普通教科「情報」を構成する諸科目の目標と内容 (3)専門教科「情報」を構成する諸科目の目標と内容 (4)普通教科「情報」教育の教材研究と授業設計
教科書	高等学校学習指導要領解説「情報編」
参考書・資料	高等学校学習指導要領解説「情報編」 情報科教育法、岡本敏雄他著、丸善 教科「情報」実習へのフライト、CIEC編著、日本文教出版
担当者から一言	教科「情報」の授業は、演習、実習を多く含む内容になっています。この授業においても、みなさんが活動を通して学ぶ場を多く設定するつもりですので、積極的な取り組みを期待します。

授業コード	N0112		
授業科目名	情報科教育法II(教科教育法II(情報科))(集中)		
担当者名	野中陽一(ノナカ ヨウイチ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	教科教育法I(情報科)で学んだ基礎知識と理論をふまえて模擬授業を実施し、情報科の授業実践に求められる資質と実践的能力を養う。		
到達目標	情報科の授業を行うことができる。		
講義方法	指導計画、指導案の作成及び模擬授業、授業評価等、実習中心の授業である。		
準備学習	教科教育法I(情報科)で学んだ内容を理解しておくこと。		
成績評価	実習の成果としての指導計画、指導案及び模擬授業について評価する。授業への参加態度等を含め総合的に評価する。		
講義構成	教科教育法II(情報科)では次の事項を扱う。 (1)普通教科「情報」の指導計画、指導案の作成 (2)専門教科「情報」の指導計画、指導案の作成 (3)模擬授業(その1) 普通教科「情報」または、専門教科「情報」 (4)模擬授業(その2) 専門教科「情報」または、専門教科「情報」 (5)総括		
教科書	高等学校学習指導要領解説「情報編」		
担当者から一言	情報科の授業を実施するために、必要な知識やスキルについて、模擬授業を通して体験的に理解し、身につけて欲しい。		

授業コード	N0101		
授業科目名	数学科教育法I(教科教育法I(数学科))(前)		
担当者名	平井崇晴(ヒライ タカハル)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	<p>数学教師は数学好きでなければならない。数学が嫌いだった者には数学教師になることを勧めるが、数学嫌いな者が数学教師になることは本人も教わる子どもも悲劇である。</p> <p>本講義は今よりもっと数学好きになって頂くことを主たる目的とし、単なる知識・技法の伝達には終始しない。同時に教材観、数学観、教育観を培い、数学教師としての教科書の読み方や教材研究について解説する。</p> <p>講義の進捗状況や展開によって予定を変更することがあるので十分に注意されたし。詳細は[公式ホームページ、http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/methstop.html]を参照のこと。</p>		
到達目標	高校までの教科書レベルの数学が解けること。その答案が生徒に見せて恥ずかしくないものであること。教材観、数学観、教育観が芽生えていること。		

講義方法	講義及び演習
準備学習	{公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/meththop.html }[基本問題集, http://pal.las.osaka-sandai.ac.jp/~hirai/pdf/method/prime_10.pdf](随時更新)及びその関連事項を日々学習すること。数学及び数学教育に常に興味を持ち、ニュースやテレビ等にも意見を持つこと。例えば、数学や教育に関するニュースを生徒に質問されても返答できるよう、常に備えること。
成績評価	試験、演習およびレポートなどにより総合的に評価する。詳細は講義や{公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/meththop.html }で告知する。
講義構成	1. 基礎学力(小学算数～高校数学)の鍛錬 2. レクリエーション数学 3. よい授業と上手い授業、悪い授業と下手な授業 4. 教科書を読む(教育的配慮を見抜く) 5. なぜ数学が難しいのか(心理学的に生徒を見る) 6. なぜ数学が難しいのか(第二言語としての数学) 7. 数学そのものの難しさ(間接証明法) 8. 教材の研究(発展的な展開)
教科書	特定のテキストは用いない。
参考書・資料	1.「なぜ数学を学ぶのか」(田村三朗 著) 大阪教育図書 2.「数学科教師をめざす人のために」(杉山吉茂 著) 一ツ橋書店 2.には多くの参考書が紹介されているので参照のこと。また講義の中でも参考書を紹介していく予定。
担当者から一言	教師になったあなたに子供が質問した。 「なんで数学なんか勉強せなあかんのか?」 将来のあなたはへと答えるか。その時までには答えを考えつづけること。
ホームページタイトル	{「教科教育法Ⅰ・Ⅱ(数学科)」公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/meththop.html }

授業コード	N0102		
授業科目名	数学科教育法Ⅱ(教科教育法Ⅱ(数学科))(後)		
担当者名	平井崇晴(ヒライ タカハル)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	<p>数学教師は脚本家であり役者でなければならない。それも型破りのストーリーが面白い。しかし、型を破るには先ず型にはまる必要がある。本来の型を知らずに型破りと称するは、単なるドタバタ劇に過ぎない。</p> <p>本講義はシナリオライターとしての数学教師になって頂くことを主たる目的とし、型としての学習指導要領や指導案の作成法について解説する。同時に教材観、数学観、教育観を培い、脚本家としての力量を身につける。</p> <p>講義の進捗状況や展開によって予定を変更することがあるので十分に注意されたし。詳細は{公式ホームページ,http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/meththop.html}を参照のこと。</p>
到達目標	高校までの教科書レベルの数学が解けること。その答案が生徒に見せて恥ずかしくないものであること。教材観、数学観、教育観を指導案に反映させられるようになること。
講義方法	講義及び演習
準備学習	{公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/meththop.html }[基本問題集, http://pal.las.osaka-sandai.ac.jp/~hirai/pdf/method/prime_10.pdf](随時更新)及びその関連事項を日々学習すること。数学及び数学教育に常に興味を持ち、ニュースやテレビ等にも意見を持つこと。例えば、数学や教育に関するニュースを生徒に質問されても返答できるよう、常に備えること。
成績評価	試験、演習およびレポートなどにより総合的に評価する。詳細は講義や{公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/meththop.html }で告知する。
講義構成	1. 基礎学力(小学算数～高校数学)の鍛錬 2. 学習指導要領について 3. 導入教材について 4. 指導案について 5. 教具について 6. 誤答分析 7. 評価について 8. 教材に登場する「物」について(立方体の研究)

教科書	特定のテキストは用いない。
参考書・資料	1.「なぜ数学を学ぶのか」(田村三朗 著) 大阪教育図書 2.「数学科教師をめざす人のために」(杉山吉茂 著) 一ツ橋書店 2.には多くの参考書が紹介されているので参照のこと。また講義の中でも参考書を紹介していく予定。
担当者から一言	高校生が質問した。 「先生、微分したら $f(x)$ になる関数を原始関数 $F(x)$ という、なんて習いましたけど、どんなに複雑な形をしていても微分して $f(x)$ になる関数 $F(x)$ っていつも考えられるのですか?」 この質問にあなたはへと答えますか?
ホームページタイトル	{「教科教育法Ⅰ・Ⅱ(数学科)」公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/methstop.html}

授業コード	N0181		
授業科目名	生徒指導法(進路指導含む)(1クラス)(前)		
担当者名	古川 治(フルカワ オサム)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限

講義の内容	これまで歴史的、全国的に積み上げられてきた教育実践に学びつつ、受講生の実践的な指導力育成を目指し、学生主体の参加型講義を行う。生徒指導とは何かについて指導の実際を、ロールプレイ、ディベート、いじめ事件等のケーススタディ、カウンセリング実習、グループワークを通じて体験的に学ぶ。その他、小テスト、レポート作成を課し、評価資料とする。
到達目標	生徒指導の目的と内容について理解を深めるとともに実践的指導能力を獲得する。
講義方法	講義及びロールプレイ
準備学習	学校における生徒指導上の諸問題に関するニュースをよく読んでおくこと。
成績評価	出席状況、受講態度、学習指導案、模擬授業、レポート等により総合的に評価する。
講義構成	第1回: 生徒指導とは何か 第2回: 遅刻指導を通じて「生徒指導」を考える 第3回: 生徒懲戒と体罰 第4回: いじめとは何か、いじめをどうとらえるか 第5回: いじめ事件への対応 第6回: 不登校の多様性 第7回: 不登校児童・生徒への指導 第8回: 既習事項についての小テスト実施 第9回: 生と死を考える生徒指導(自殺防止教育のあり方) 第10回: 現代のセクシャル・アクシデント 第11回: 性に関する指導の留意点 第12回: 触法、犯罪少年の対応(関係機関との連携) 第13回: 校則違反指導と校則の見直し 第14回: 中学生、高校生への進路指導の視点 第15回: まとめ
教科書	プリント資料による

授業コード	N0182		
授業科目名	生徒指導法(進路指導含む)(2クラス)(前)		
担当者名	吉田卓司(ヨシダ タカシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜1限
オフィスアワー	適宜、講義の前後に質問等をしてください。		

講義の内容	子どもが試行錯誤を経て発達・成長する存在である以上、学校教育における学習指導、進路指導、生活指導等
-------	---

	<p>の場面で、様々な悩みや問題が生じた時に適宜、適正な生徒指導を行うことは、教員にとって最も基本的な責務だといえるでしょう。</p> <p>教員による生徒指導法については、これまで歴史的にも、全国的にも数多くの教育実践が積み上げられてきています。一教員や一学校の個別的経験のみに依存した生徒指導ではなく、そのような先進的な取り組みや生徒指導上の具体的な課題を紹介しながら、受講生一人ひとりが生徒指導のあり方を考えることが講義内容となります。そのことを通じて、創造的かつ実践的な指導力が受講生の内面に育つことを願っています。</p>
到達目標	<p>講義の主要な目的は、教育基本法や学校教育法等の教育関連法規、さらに日本国憲法、児童の権利に関する条約等の理念に基づいた生徒指導とは何か、現実的かつ公正・適切な生徒指導とは何か、生徒の権利を保障するために教員が生徒にどのように関わっていくべきか等について、教育判例や事例から導かれた教訓を教職志望者が明確に理解し、それらの課題解決能力を獲得することにあります。</p>
講義方法	<p>講義形式に加えて、受講者自身によるロール・プレイ形式(教師役、生徒役、保護者役等)やディベート形式の授業参加を求め、生徒指導上陥りやすい過ちや個々の生徒の内面理解への糸口がどのようなところにあるのか等につき議論を深めたいと思います。なお、適宜、講義時に生徒指導上の課題(テーマ)について小論文作成を課します。冬季休業中に、任意提出の課題を予定しています。課題の詳細は12月の講義と大学教職関係掲示板などにて伝達します。</p>
準備学習	<p>講義前に、講義テーマに関連する項目について、テキストを読了しておいてもらいたいと思います。また、講義の際、適宜、予習・復習に関するレポートを課することがあります。</p>
成績評価	<p>以下の3つの要素を総合的に考慮して評価します。</p> <p>(1) 学期末の筆記試験 (2) 講義時に作成する小論文(出席と講義内容の理解の確認を含む) (3) 講義時の発問に対する回答及びロール・プレイ等の授業参加の積極性</p> <p>注記(1)「学期末の筆記試験」の結果は単位取得に関する基本要素であり、その受験は前提条件ですが、実践力の育成という講義内容の趣旨から(2)の小論文と出席も単位取得の基本要素となります。土曜開講であることを配慮し、他の講義等の実習・部活動・ボランティアなどによって欠席する場合には、事前に届けてもらうことで、評価上の配慮をするつもりです(届出の方法は、第一回目の講義にて説明します)。また、評価に当たっては(3)の講義への参加姿勢とその積極性を重視します。</p>
講義構成	<p>講義構成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒指導法オリエンテーションー自己プロフィールの記入(受講者は必ず提出してください) 2. 遅刻指導を考える (ロールプレイ) 3. 体罰とは (ディベート) 4. いじめ指導の基本原則と解決への道(ケーススタディー) 5. 青少年の自殺一生と死に関わる指導(マンツーマン・カウンセリング体験) 6. 不登校・高校中退への対応 (プレーン・ストーミング) 7. 中学・高校生の性と指導 (ロールプレイ) 8. 少年犯罪と非行(窃盗・万引き、薬物・喫煙・飲酒、校内暴力等)(ケーススタディー) 9. 校則と生徒指導 (ロールプレイ) 10. 進路指導の今日的課題と展望 (バズセッションとケーススタディー) 11. キャリア教育の現段階 (先進的実践事例の紹介) 12. 生徒に何を、いかに語るか (生徒指導・進路指導講話実習) 13. 生徒指導・進路指導をめぐる議論の総括 (状況に応じて適宜講義内容の加除を行なう可能性があります) <p>その他一下記教科書の3-4章分を講義した後に、小テスト形式の問題演習も実施する予定です。</p>
教科書	<p>吉田卓司『教職入門・生徒指導法を学ぶ』(三学出版、新版2008年) 吉田卓司『生徒指導法の実践研究』(三学出版、2008年)</p>
参考書・資料	<p>土屋基規・望月彰編著『いのちの重みを受け止めてー子どもの人権と兵庫の教育』(神戸新聞総合出版センター、1997年) 川田文子編著『授業・「従軍慰安婦」ー歴史教育と性教育からのアプローチ』(教育史料出版、1998年) 広中健次・金子さとみ『学校はだれのもの』(高文研、1999年) 才村真理編『元気になーれー対人援助のプロ技』(三学出版、2001年) 柿沼昌芳・永野恒雄編『学校の中の事件と犯罪 I』『学校の中の事件と犯罪 II』(批評社、2002年) 安藤博『子どもの危機にどう向き合うか』(信山社、2004年) 柿沼昌芳・永野恒雄編『学校の中の事件と犯罪 III』(批評社、2005年)</p>
講義関連事項	<p>適宜講義時に参考資料プリントを配布します。散逸しないようにファイルなどにより各自で整理・保存してください。</p>
担当者から一言	<p>教職につくための基本的姿勢として、積極的な講義への参加を期待しています。また、講義内容の性格からも出席状況は、評価において大切な要素の一つと見ています。出席することはもちろんのこと、講義に遅刻しないように注意してください。質疑応答、学生間での討議、ロールプレイによる実習などへの意欲的な取り組みを評価したいと考えています。なお、他の講義・実験・演習、クラブの公式試合、大学の行事・式典でやむをえない理由のある場合、事前に講義レポートの氏名欄の上のスペースに、欠席予定日時、具体的な講義名、部活動試合</p>

	名、行事名とその日時を記してください。この事前連絡をした場合については、公欠扱いとします。
その他	連絡用メールアドレス yoshidataxi@yahoo.co.jp

授業コード	N0201		
授業科目名	総合演習(1クラス)(後)		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)、橋口 誠(ハシグチ マコト)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜3限 土曜4限
特記事項	〔隔週開講〕変則日程で行う		
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	環境教育は教室の知識だけでなく、フィールドにおいて知識を獲得するスキルも学ぶ必要がある。教室では見出せない子どもの個性が野外で現れる。また、環境教育を通じた活動によって「心豊かな人間性」と「問題解決能力」を培うことができる。これらをディスカッション形式による演習の中でどのようにカリキュラムを作成しフィールド活動のトレーニング技術を身につけたらよいかを学ぶ。評価としては、受講者にモデル・プログラムの作成を課し、プレゼンテーションを行なう。
到達目標	教師になったとき、いつでも指導できるように目標を設定する。
講義方法	甲南大学環境教育野外施設(広野)において野菜の手入れやビオトープ作りと観察、収穫の喜びを体験し、学校教育におけるカリキュラムを作成する。(フィールド活動、実習費、雨天決行【雨具など各自で用意してきてください】) ※初回の講義が実習になるため、掲示に注意しておいてください。また研究室ホームページにもレポートのフォーマットと連絡事項を掲載していますので、確認ください。
準備学習	各自が環境教育指導計画を作成し、授業の最終回において発表、プレゼンテーション、ディスカッションを行なう。各回の授業・実習の内容・目的・方法・評価をまとめ、最終回の発表に備えること。
成績評価	生態系・環境教育の知識、野外活動のセンス、指導力、責任感、忍耐力などが評価の基準となる。レポート。プレゼンテーション。 最終回に各自で作成した環境教育プログラム(指導案)を発表する。
講義構成	第01回 オリエンテーション:(あいな里山国営公園)【橋口】 第02回 環境教育に関する教材①:里山保全活動(あいな里山国営公園)【谷口】 第03回 環境教育の意義と役割(環境教育野外施設)【橋口】 第04回 環境教育に関する教材②:作物と土に親しむ<稲刈り>(環境教育野外施設)【谷口】 第05回 学校における環境教育の推進、環境教育の指導を通して身につけた能力と態度(環境教育野外施設)【橋口】 第06回 環境教育に関する教材③<脱穀>(環境教育野外施設)【谷口】 第07回 学習指導要領に見られる環境教育に関わる内容の取り扱い(本校舎)【橋口】 第08回 各教科における環境教育の指導(本校舎)【谷口】 第09回 環境教育に関する教材・教具、指導に関する実践事例Ⅰ<夏野菜・米の世話>(本校舎)【橋口】 第10回 環境教育に関する教材・教具、指導に関する実践事例Ⅱ<プログラムの作成の基礎>(本校舎)【谷口】 第11回 環境保全の意欲増進と環境教育推進法(本校舎)【橋口】 第12回 シンポジウム「パートナーシップによる環境教育の展開(環境省)」(本校舎)【橋口】 第13回 収穫祭(餅つき大会・エコクッキング)<フィールドワークの実践>(環境教育野外施設)【橋口】 第14回 収穫祭(餅つき大会・エコクッキング)<フィールドワークの意味づけ>(環境教育野外施設)【谷口】 第15回 総合的な学習として行なう環境教育のカリキュラムづくり(本校舎)【橋口】 第16回 環境教育指導計画案(プレゼンテーションとレポートで評価)(本校舎)【谷口】
教科書	谷口文章『環境教育の哲学－環境教育学序説－』(ミネルヴァ書房)
参考書・資料	国立教育政策研究所『環境教育指導資料(小学校編)改訂版』 http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidou/shiryo01/kankyo02.pdf
講義関連事項	広域副専攻「環境教育の実践Ⅰ・Ⅱ」、人間科学科専門科目「国際環境教育ネットワーク」、「国内環境教育ネットワーク」、「環境学基礎論」、「人間環境論」、学内イントラネット「人間と環境」
担当者から一言	1年間の自然のリズムを知るために、前期開講の「環境教育の実践Ⅰ」(広域副専攻)を合わせて受講することが望ましい。日常の環境モラルやマナーから、講義の内容を出発させたく考えています。
ホームページタイトル	{甲南大学文学部 谷口研究室, http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/ }

授業コード	N0202		
授業科目名	総合演習(2クラス)(後)		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)、橋口 誠(ハシグチ マコト)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜3限 土曜4限
特記事項	〔隔週開講〕変則日程で行う		
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	異文化理解も含めた環境倫理は、「人間環境宣言」(ストックホルム宣言)の中でも強調されているように、地球環境問題の解決のためのガイドラインの倫理的裏づけとなる。その理論的枠組みを研究するとともに、その研究内容をフィールドワークを通じて検証する。また、その学習体験を理論へとフィードバックする。このような理論—実践のグループ演習によって、環境モラルと「生きる力」をどの程度身につけたかを自己評価できるように指導する。
到達目標	21世紀を担う若者への環境マナーの教育ができること。
講義方法	甲南大学環境教育野外施設において自然体験を通じて生命の輝きを見出す。そのために、「センス オブ ワンダー」(レイチェル・カーソン)を覚醒するような手法を考えていく。 ※初回の講義が実習になるため、掲示に注意しておいてください。また研究室ホームページにもレポートのフォーマットと連絡事項を掲載していますので、確認ください。 【フィールド活動／実習費：要／雨天決行(各自で必要に応じて、雨具の用意をしてきてください)】
準備学習	各自が環境教育指導計画を作成し、授業の最終回において発表、プレゼンテーション、ディスカッションを行なう。各回の授業・実習の内容・目的・方法・評価をまとめ、最終回の発表に備えること。
成績評価	生命(いのち)の尊重、生命の育成、指導力、責任感、忍耐力などが評価の基準となる。レポート。プレゼンテーション。出席。 最終回に各自で作成した環境教育プログラム(指導案)を発表する。
講義構成	第01回 オリエンテーション(あいな里山国営公園)【谷口】 第02回 環境教育に関する教材①: 里山保全活動(あいな里山国営公園)【橋口】 第03回 学校教育における環境倫理とは何か(環境教育野外施設)【谷口】 第04回 環境教育に関する教材②: 作物と土に親しむく稲刈り(環境教育野外施設)【橋口】 第05回 環境倫理にもとづいた環境教育(環境教育野外施設)【谷口】 第06回 環境教育に関する教材③: <脱穀>(環境教育野外施設)【橋口】 第07回 学習指導要領に見られる環境倫理に関わる内容の取り扱い(本校舎)【谷口】 第08回 センス・オブ・ワンダーの覚醒を目指して(本校舎)【橋口】 第09回 環境モラルと環境教育Ⅰ<生命の尊重>(本校舎)【谷口】 第10回 環境モラルと環境教育Ⅱ<環境マナー>(本校舎)【橋口】 第11回 環境保全の意欲増進と環境教育推進法<環境省>(本校舎)【谷口】 第12回 シンポジウム「パートナーシップによる環境教育の展開(環境省)」(本校舎)【谷口】 第13回 収穫祭(餅つき大会、エコクッキング)<フィールドワークの実践>(環境教育野外施設)【谷口】 第14回 収穫祭(餅つき大会、エコクッキング)<フィールドワークの意味づけ>(環境教育野外施設)【橋口】 第15回 総合的な学習として行なう環境倫理のカリキュラムづくり(本校舎)【谷口】 第16回 環境教育指導計画案(プレゼンテーションとレポートで評価)【橋口】
教科書	谷口文章『環境教育の哲学—環境教育学序説—』(ミネルヴァ書房)
参考書・資料	・国立教育政策研究所『環境教育指導資料(小学校編)改訂版』 http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidou/shiryo01/kankyo02.pdf
講義関連事項	広域副専攻「環境教育の実践Ⅰ・Ⅱ」、人間科学科専門科目「国際環境教育ネットワーク」、「国内環境教育ネットワーク」、「環境学基礎論」、「人間環境論」、学内イントラネット「人間と環境」
担当者から一言	1年間の自然のリズムを知るために、前期開講の「環境教育の実践Ⅰ」(広域副専攻)を合わせて受講することが望ましい。日常の環境モラルやマナーから、講義の内容を出発させたく考えています。
ホームページタイトル	{甲南大学文学部 谷口研究室, http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/ }
URL	http://kankyo-institute.lit.konan-u.ac.jp/~taniguchi/archives/lecture.html

授業コード	N0203
-------	-------

授業科目名	総合演習 (3クラス)(後)		
担当者名	森 茂起(モリ シゲユキ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
オフィスアワー	金曜昼休		

講義の内容	<p>この演習では、現代社会における青少年の心の危機を理解し、それらの問題への対処法を考えることを目的とする。そのために、まず学生自らの成長過程、その中で受けた教育体験を振り返りかえることを通じて、心の危機と教育の本質を学生自らが考え、吟味する機会を持つ。その後、学校場面における具体的な問題を取り上げ、現状を知るために資料も用いながら、自らの経験と突き合せて授業内で検討する作業を行う。</p> <p>学生はすべて、小学校、中学校、高等学校と学校教育を経てきただけでなく、家庭教育やクラブ活動なども通じて、教育というものを体験してきている。その過程で、多かれ少なかれ心の危機を経ているはずである。その経験は、一方で、自らが教壇に立ったときの貴重な指針となるが、他方で、自らの経験の特殊性によって、生徒理解の偏りを生じる危険もある。自らの危機を教員の援助によって適切に乗り越えたものは、自然とそのような働きかけを生徒にできるであろうし、逆に、教育のなかで否定的な体験を持った者は、教育の効果について悲観的な判断をするかもしれない。</p> <p>このような偏りは、意識的な形だけでなく、無意識的に生徒に対する姿勢に影響を与えるだけに、十分自らの受けた教育を振り返り、その意味について公正な判断を持っておく必要がある。よい部分について認識することで、自らの教育に生かすことができるであろうし、悪い部分を認識することで、そこからの影響から自由になり、主体的な教育がいっそう適切に行えるであろう。</p>
到達目標	自らの体験を客観視する力を身につけるとともに、他者から学ぶ姿勢、他者と意見交換することで生産的な結果を生み出す力をつける。
講義方法	授業は、それぞれの学生が、各回のテーマについて、自らの体験を記録し、分析したものを用意し、授業内で発表し、討論し合うかたちをとる。教員は、学生の討論に適宜コメントを加え、理解の深化を促進する。今日の諸問題を考える回には、資料による下調べの課題も科す。
準備学習	各時間ごとに与えられる課題に関して小レポートを書く。
成績評価	授業への参加とレポートによる。
講義構成	<p>扱うテーマは以下の通りである。年度ごとの教育をめぐる状況によって新たなテーマを設定することもある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1よい教師 2悪い教師 3ほめられ体験 4叱られ体験 5いじめ(いじめに関する体験) 人関係の困難。 6いじめ(現象の理解) 7いじめ(対策) 8映画に見る教育(2回) 9不登校 10トラウマ体験 11まとめ
教科書	なし

授業コード	N0204		
授業科目名	総合演習 (4クラス)(後)		
担当者名	前田忠弘(マエダ タダヒロ)、吉田卓司(ヨシダ タカシ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜2限
オフィスアワー	講義終了後		

講義の内容	「児童生徒の問題行動・非行とその対応」をテーマに、具体的な事例にもとづいて、児童生徒の健全育成を総合的に研究、討論する。教室での授業に加え、少年院参観などのフィールドワークを行う。
到達目標	児童生徒の健全育成というわが国の社会が直面する課題について、教員を志望する者の理解を深め、それぞれの教科指導および生徒指導において適切な実践を行える力の養成を目標とする。
講義方法	上記の目標に到達するため、学校教育と関連する「事故」や「犯罪」を材料に、受講生の専門性を生かしつつ、

	様々な角度から分析、討論を行う。
準備学習	各自の選択した課題につき、授業で行うプレゼンテーションを準備すること。
成績評価	各自が行ったプレゼンテーションの内容と毎回提出を求める授業に関する評価シートを総合して成績評価を行う。
講義構成	(1)各自が選択した「事件」に関するプレゼンテーションと討論 (2)少年院参観
教科書	初回講義の際に教科書および文献案内を行う。

授業コード	N0205		
授業科目名	総合演習(5クラス)(後)		
担当者名	中村耕二(ナカムラ コウジ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	火曜日5限(4時30分から)		

講義の内容	<p>1. 基本理念: 国際理解教育(地球市民教育)の基本は平和と人間愛である。</p> <p>2. 目的: (1)学校現場での「総合的な学習の時間」に多文化教育・国際理解教育(地球市民教育)を推進する指導力を育成する。同時に国際理解に関心のある教員志望の参加者による「学びの共同体」の構築を目指す。</p> <p>(2)教員を志望する受講生がグローバルな人類の共通問題に関して学習者中心の模擬授業や討論をすることで、21世紀を生きる児童生徒の地球市民としての意識を育む方略を学ぶ。</p> <p>(3)CALL教室のインターネットを活用し、リアルタイムの情報や事実を交えてプレゼンテーションしたり、議論できる能力を養う</p> <p>3.内容: 模擬授業の中で、受講生はブレインストーミング、ラーニングスキル、(情報収集、情報精選と意見構築、仮説立案等)、ロールプレイ、プレゼンテーション、ディスカッション、デイバートなどを最大限に活用し、児童生徒の異文化間リタラシーを養い、地球市民としての意識を深め、問題解決能力を伸長させるための指導方法や方略を身につける。</p> <p>4受講生全員による模擬授業・発表テーマの例: 日本文化と日本人論、戦争と平和、核兵器、原爆(広島・長崎)・沖縄、人権・地球資源、環境・児童労働、貧困、多文化共存・国際交流・差別・移民・難民、異文化コミュニケーション、人類愛、グローバル化の功罪、南北問題等</p> <p>5 毎週受講生による模擬授業の後、参加者全員で授業の目的と内容に関して自由に意見交換や相互批判をして、国際理解教育・平和教育の授業改善を目指す。</p>
到達目標	<p>学校現場での「総合的な学習の時間」に多文化教育・国際理解教育(地球市民教育)を推進する指導力を育成する。また、教員を志望する受講生がグローバルな人類の共通問題に関して学習者中心の模擬授業や討論できる能力を伸ばす。</p> <p>21世紀を生きる児童生徒の地球市民としての意識を育む方略を修得する。</p>
講義方法	<p>担当教員は学習者中心で双方向の問題解決のための講義を目指す。</p> <p>受講生自身の模擬授業においても、参加型の授業方法を実践していただく。</p>
準備学習	<p>日本文化と日本人論、戦争と平和、核兵器、原爆(広島・長崎)・沖縄、人権・地球資源、環境・児童労働、貧困、多文化共存・国際交流・差別・移民・難民、異文化コミュニケーション、人類愛、グローバル化の功罪、南北問題等に関する問題意識と背景知識を日頃から養う努力をする。</p> <p>専門的な知識のベースになる 一般的な教養教育を大事にする。</p>
成績評価	受講生の模擬授業・発表の内容、討論への参加態度、出席回数、レポートなどを総合的に評価する
講義構成	<p>1. 総合演習3(多文化教育・国際理解の目的と意義)</p> <p>2 ジョン・デューイの問題解決のための反省的思考の体得</p> <p>(1) 問題の定義</p>

	<p>(2) 現状分析と問題の因果関係の分析 (3) 可能な限りの解決策の意見交換 (4) 最善の解決策、統合された解決策の選択 (5) 最善の解決策の実行可能性の確認</p> <p>3 受講生による各テーマ別の模擬授業と討論</p> <p>受講生が選択する模擬授業の主なテーマ（受講生の希望により順不同） 1回 グローバリゼーションの功罪 2回 日本文化論、日本人論、日本人のアイデンティティ 3回 原爆（広島・長崎） 原爆詩 4回 戦争と平和 5回 性差別、人種差別と基本的人権 6回 持続可能な社会と環境保護 7回 多文化共存 8回 国際交流・異文化理解 9回 児童労働・貧困 10回 南北問題とグローバルな格差 11回 異文化コミュニケーションの問題 12回 人類愛 人間の愛の力 13回 グローバリゼーションの功罪 14回 アジア・太平洋戦争から学ぶこと</p> <p>4 模擬授業の後、参加者全員で授業の目的と内容に関して自由に意見交換や相互批判をして、国際理解教育・平和教育の授業改善を目指す</p>
教科書	新しい開発教育のすすめ方 古今書院
参考書・資料	「多文化共生社会を目指す国際理解教育—21世紀に求められる地球市民教育—」 甲南大学国際言語文化センター紀要『言語と文化』第5号pp.1-23<中村耕二> 新しい開発教育のすすめ—地球市民を育てる現場から— 開発教育推進センター編（古今書院） 授業づくりハンドブック③（一本のバナナから）大津和子著<国土社> 国連憲章
講義関連事項	BBC World News, NHK Special等を良く見て、日頃から地球上の人類共通の問題に関心を持ち、常に新しい情報を手に入れる努力をすること。

担当者から一言	授業への積極的な参加と学生諸君による問題解決のための模擬授業を重視したい。
その他	将来、中学校や高等学校の教師を目指す者は、多文化教育・国際理解教育・地球市民教育を推進する知識と指導力が現場で要求されるので、受講が望ましい。また、教職希望者で2年次に国際言語文化科目の中の国際理解（火曜日4限）を受講できていない者も歓迎する。
ホームページタイトル	{KOJI Nakamura Online Desk, http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~koji/ } {Global Literacy 国際対話能力, http://ehlt.flinders.edu.au/education/iej/articles/v3n5/6nakam/paper.pdf }
URL	http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~koji/

授業コード	N0206		
授業科目名	総合演習（6クラス）(前)		
担当者名	胡 金定（コ キンテイ）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	後期開講の他クラスを履修することはできない。		
オフィスアワー	金曜日昼研究室(12:15～12:55)		

講義の内容	本演習では、文化と文明の違い、石の文明の特徴、砂の文明が持っている力、泥の文明の特性を取り上げて、講義を進めていく。
到達目標	インターネットの急速な発達によって、21世紀の国際社会における相互依存関係がますます深まると同時に、異なった文化や生活様式及び価値観を持つ人々がいやおうなく接触、交流をしなければならなくなった。このよう

	な国際社会において必要とされる開かれた国際意識、共通の価値観、相互理解能力の育成がこの総合演習の到達目標である。
講義方法	この演習を有効にするために、松本健一氏の『砂の文明・石の文明・泥の文明』を受講者に手分けして、毎回一人か二人に読後感想を発表してもらい、それを踏まえてディスカッションを行なう。中学生や高校生に、どのようにして異文化理解を指導するかを考えてもらい、実際の教育現場を設定して指導案を作成させ、模擬授業をも行なう。
準備学習	前回の講義内容を復習し、次回の講義内容の予習をしていくこと。
成績評価	出席状況、授業に対する積極性を40%にし、期末試験を60%にする。
講義構成	<p>第 1回:序 章 砂の風土との戦い イラク戦争は終わったか 10 イラク攻撃の理由 11 バーチャル・リアリティの戦争 13 人はなぜ「不毛」な砂漠に住むのか 16 チュニジア砂漠、シリア砂漠も森林地帯だった 19 イヴン＝ハルドゥーンの『歴史序説』 21 文明と野蛮の逆転? 25</p> <p>第 2回:第1章 文化と文明の違い 「文明」(シヴィライゼーション)という言葉の歴史 32 中国の「精神文明」、日本の「精神文明」 35 日本でつくられた「文化」という言葉 38 「文化」は野蛮か 42</p> <p>第 3回:「文身」は「野蛮」の象徴 44 日本の「見せない」文化 48 「文化」は民族の生きるかたち 50 文字を持たない「文化」もあった 53 ハンチントンの罠 55</p> <p>第 4回:「文明の衝突」はあり得ない 58 共存するイスラム文化 60 「アメリカ原理主義」という病理 63 アメリカでイスラム教徒が増加 66</p> <p>第 5回:第2章 石の文明――外に進出する力 ヨーロッパ――石の風土 72 近代資本主義を生みだした石の風土 75 牧畜とフロンティア精神のつながり 77 大塚久雄の分析――ゲルマン的共同体 79 羊飼い・牧師と、迷える小羊 84</p> <p>第 6回:牧畜文化で「羊」、農耕文化で「草」にたとえる 85 「石の文明」における創造と破壊 90 西洋とアジアにおける自然観の違い 93 牧畜文明のフロンティア 95 内に蓄積するアジアの文明 97</p> <p>第 7回:第3章 砂の文明――ネットワークする力 植物さえ砂漠の民 102 定住しない砂漠の民 104 『アラビアのロレンス』『千夜一夜物語』にみるアラブの発想 106</p> <p>第 8回:こんなに生きるネットワークの力 108 アラブの国境線が点線である理由 111 「砂の文明」への恐怖 114</p> <p>第 9回:第4章 砂の文明――内に蓄積する力 生命の根源としての泥 120 生物種が増えた理由 123 マレーシアとアメリカの国際社会との対立構図 126</p> <p>第10回:エイジアン・グリーンベルト 129 泥海の国土をつくり変える 130 インドと日本の類似点 134</p> <p>第11回:第5章「泥の文明」の中の日本 縄文という洗練された文化 140 民族の文化の中から生まれる固有の物語 143 文明を取り入れて文化が生まれる 146 文化が文明をねじ伏せる例 148</p> <p>第12回:稲作から生まれたモノ作り文化 150 ムラ共同体が祖育んだ内に蓄積する力 152</p>

	<p>一九九二年のロス暴動の意味 154 品質管理と品質改良のイノベーション(技術革新) 158 第13回:新幹線の通路はなぜ狭いのか 163 文明化されていた江戸時代 168 なぜ日本車が世界を制覇したのか 172 第14回:終章 文明としてのインド再発見 日本文化の底層にあるインド文明 178 司馬遼太郎のインド文明に対する違和感 182 日本とインドの共通性 184 「泥の文明」が生みだした男女対等の意思 187 第15回:力のヨーロッパ、美のアジア 189 ガンディーの「非暴力的抵抗」 194 「糸紡ぎ車」が指し示すもの 198 あとがき 202</p>
--	---

教科書	<p>テキスト:『砂の文明・石の文明・泥の文明』 著者:松本 健一 出版社:PHP研究所(PHP新書) 定価:700円+税</p>
参考書・資料	<p>テキスト:『異文化理解』 著者:青木 保 出版社:岩波書店(岩波新書) 定価:700円+税</p>
講義関連事項	<p>教室での授業のほかに、日本に来ている外国人との交流も考えています。出来るだけ、異文化理解のチャンスを増やしていきたいと思っています。</p>

担当者から一言	<p>コキンちゃん(胡金定の愛称)と楽しく国際理解、異文化理解を深めていきましょう。</p>
その他	<p>楽しく、身につく授業の雰囲気を出していきたいです。ぜひご期待してください。</p>
ホームページタイトル	<p>{胡金定.com,http://kokintei.com}</p>
URL	<p>http://www.kokintei.com</p>

授業コード	N0207		
授業科目名	総合演習(7クラス)(後)		
担当者名	高 龍秀(コ ヨンス)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限

講義の内容	<p>アジア各国の経済と社会についての理解を深める。このテーマで各自が調べてきて、授業形式のプレゼンテーションを行う。授業方法の向上に関しても、議論する。</p>
到達目標	<p>アジア各国の経済と社会について理解を深め、そのプレゼンテーション能力を高める。</p>
講義方法	<p>アジアの経済と社会、日本との関係についての理解を深める。アジア各国の社会経済の特徴や日本との援助・貿易・投資などの関係を学ぶ。この内容に関連して、各自がテーマを決め、プレゼンテーションを行い、全体で議論する。</p>
準備学習	<p>事前に決められた課題について予習し、プレゼンテーションの準備を行う。</p>
成績評価	<p>テーマについてよく調べてきたか、プレゼンテーションの内容、議論に積極的に参加したかに関して評価する</p>
講義構成	<p>第1回: アジアの経済と社会の概説 第2回: 中国の経済と社会:発表と討論 第3回: 韓国の経済と社会:発表と討論 第4回: 台湾の経済と社会:発表と討論 第5回: 香港の経済と社会:発表と討論 第6回: シンガポールの経済と社会:発表と討論 第7回: アジアNIEs諸国と日本の関係:発表と討論 第8回: タイの経済と社会:発表と討論 第9回: マレーシアの経済と社会:発表と討論 第10回: インドネシアの経済と社会:発表と討論 第11回: フィリピンの経済と社会:発表と討論</p>

	第12回: アセアン諸国と日本の関係:発表と討論 第13回: インドの経済と社会:発表と討論 第14回: 日本はアジアとどのような関係を志向すべきか:発表と討論 第15回: まとめ
教科書	なし
参考書・資料	なし

授業コード	N0051		
授業科目名	地理歴史科教育法I(教科教育法I(地理歴史科))(1クラス)(前)		
担当者名	森 一郎(モリ イチロウ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	この講義では、まず理論的な基礎を培うため、新教育基本法および学習指導要領の理解から始める。その後は高等学校地理歴史科の各科目(地理、日本史、世界史)に分けて実際の授業プリントも使用しながら、授業の工夫や方法について学んでいく。最後は受講者による模擬授業により実践的な授業力を育成していく。
到達目標	受講生は、この講義を受けることにより、学習指導案(教案)の作成を始めとして、実際の授業展開及び生徒の学習意欲を高める授業の工夫など、実践的な能力を身に付けることができる。
講義方法	講義のほか、受講生による学習指導案(教案)の作成、模擬授業等の演習を行なう。
準備学習	教職教育センターで、高等学校の実際の教科書をよく見ておいて下さい。
成績評価	出席状況、学習指導案、模擬授業、レポート(又は期末試験)等を総合的に判断して評価する。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(講義の目的、内容、進め方、評価の方法などについての確認) 2. 学習指導要領と地理歴史科 3. 新教育基本法と地理歴史科 4. 今なぜ「伝統・文化」の教育か? 5. 「日本史」における授業の実際とその工夫(I) 6. 「日本史」における授業の実際とその工夫(II) 7. 「世界史」における授業の実際とその工夫(I) 8. 「世界史」における授業の実際とその工夫(II) 9. 「地理」における授業の実際とその工夫 10. 板書の方法・ノート作成指導・プリント作成法・授業評価の方法 11. 学習指導案(教案)作成のポイントと演習 12. 模擬授業(I) 13. 模擬授業(II) 14. 模擬授業(III) 15. まとめ(受講生の今後に期待するもの)
教科書	特に使用しません。
参考書・資料	<ul style="list-style-type: none"> ・『高等学校学習指導要領』東山書房、平成21年9月(新教育課程の分です) ・『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』実教出版(現行課程の分です) ・高校の教科書 ・毎回、授業時に資料プリントを配布する。
講義関連事項	授業開始後、15分以降の入室を認めない

担当者から一言	配付されるプリントは、必ずファイルしておくこと。
その他	1回目の授業は、成績評価方法も含めた重要な話があり、できる限り出席すること。

授業コード	N0052		
授業科目名	地理歴史科教育法I(教科教育法I(地理歴史科))(2クラス)(前)		
担当者名	藤井一光(フジイ カズアキ)		
配当年次	3年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	月曜日4限(14:40~16:10)		
講義の内容	高等学校新学習指導要領の精神に基づき、地理歴史科の目標と内容の理解を通して、実践的な授業力の育成を図ることを目的とする。学校現場での具体的な学習指導に学び、授業の有機的な構造を探る。実際に授業を計画し、自ら学習指導案を作成することによって、地理歴史科の授業構築の方法を身につける。自らの学習指導案に基づいて、模擬授業を行い、実際の授業展開及び、生徒の学習意欲を高める工夫を行う。		
到達目標	1. 新学習指導要領における地理歴史科の目標、内容等の基本的構造が理解できる。 2. 授業計画及び、学習指導案の作成ができる。 3. 授業実践における基本的な技能を身につけることができる。		
講義方法	講義を中心とし、かつ受講者による授業計画及び、学習指導案の作成、それにしたがって模擬授業等の演習を行う。それに基づいて、ディスカッション(意見交換や分析)をおこなう		
準備学習	本講義は高等学校の地理歴史科の教育方法を学ぶものであるため、当然、高等学校の地理歴史の教科書レベルの内容は十分把握していなければならない。したがって、各自、その内容については、自学自習することが求められている。具体的には、高等学校時代の教科書を準備し、それをよく読み、知識を確かなものにしておくこと。		
成績評価	受講態度(積極的な参加・関与度)、学習指導案、模擬授業及びディスカッション、レポート、期末試験等を総合的に判断して評価する。		
講義構成	1. オリエンテーション(講義の目的、内容、方法及び評価についての確認等) 2. 地理歴史科の教師に求められているもの 3. 高等学校地理歴史科の前身及びその成立について 4. 新教育基本法と新学習指導要領の理念について 5. 新学習指導要領における地理歴史科一どのように変わったのか 6. 世界史の目標及び内容 7. 日本史の目標及び内容 8. 地理の目標および内容 9. 地理歴史科の学習指導法 10. 地理歴史科の指導計画の作成 11. 学習指導案の作成 12. 模擬授業(意見交換:分析と評価) 13. 模擬授業(意見交換:分析と評価) 14. 模擬授業(意見交換:分析と評価)		
教科書	「高等学校学習指導要領 解説 地理歴史編」 各自が高等学校時代に使用した地歴科の教科書		
参考書・資料	「中等社会諸教科教育法改訂版」学芸図書株式会社		
講義関連事項	世界史、日本史、地理のうち、自分が高等学校で履修していない科目については、特に、各自で学習を始めておくこと。		
担当者から一言	自分が、いま、教壇に立って黒板を背に、生徒に直面して授業をしていることをイメージして授業に参加して下さい。		

授業コード	N0161		
授業科目名	道徳指導法(1クラス)(後)		
担当者名	森田美芽(モリタ ミメ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	午後2時~2時30分まで非常勤講師室にて		
講義の内容	教育基本法が改正され、学習指導要領も改訂されました。また教育審議会でも道徳の時間のあり方が審議されています。現代は道徳教育の在り方そのものが問われています。本来道徳教育とは、時代を超えて変わらない人間の本质に根ざし、国際社会の一員として生きるために必要な人間形成を課題とするものです。私たちは教師として、一人の人間として広い視野を持ち、筋の通った道徳観を持ち(あるいは、持とうとする)、そして人としてどう生きるかの問いに主体的に答えようとしているかどうか問われています。本講義では、第一に教職教養としての基本的な道徳教育に関する知識を身につけ、第二に道徳教育のハウツーではなく、受講者自らが広い意味で道徳とは何かを考える素材を提供し、第三に広く教育者の素養としての、新しい教育の試みについて		

	紹介します。全体として、現代社会に求められる道德教育とは何かを考えていく授業にしたいと思います。
到達目標	教育基本法及び学習指導要領における道德教育の目標・意義等を理解し、将来自分で道德の時間を担当する場合、それを生かした授業を作ることができるような基礎知識・方法論等を身につけ、かつ幅広い教職教養の基礎となる道德観を身につけることを目標とします。
講義方法	講義形式ですが、主体的で積極的な参加をお願いします。テキストは特に使用しません。
準備学習	新聞・ニュース等で、教育関連の記事、特集、ニュースなどをよく見ておくこと。将来自分が教壇に立つことを前提に、さまざまな知識・教養を身につけていくため、常に幅広い関心を持ち、人間に対する感性や共感性を養っておくこと。
成績評価	学期末の筆記テストで約80%とし、全授業のうち最低4回出席を取りそれを平常点として約20%加算し、総合的に評価します。
講義構成	第1回、道德教育とは—教育基本法と道德教育 第2回、道德教育の位置付け—学習指導要領における道德の内容Ⅰ 第3回、道德教育の位置付け—学習指導要領における道德の内容Ⅱ 第4回、日本の道德教育の歴史(戦前) 第5回、日本の道德教育の歴史(戦後) 第6回、道德性の発達についての諸理論Ⅰ 第7回、道德性の発達についての諸理論Ⅱ 第8回、道德教育の授業理論Ⅰ 第9回、道德教育の授業理論Ⅱ 第10回、道德観の形成Ⅰ ロックの道德教育論 第11回、道德観の形成Ⅱ アーレントの公共性と道德教育 第12回、新しい道德教育の試み・環境教育と道德 第13回、新しい道德教育の試み・男女共生教育と道德 第14回、まとめ 道德の時間の指導例研究 第15回、試験
教科書	文部科学省中学校学習指導要領解説・道德編(日本文教出版)
参考書・資料	参考文献: 小寺正一・藤永芳純『道德教育を学ぶ人のために』(世界思想社、2001年) 越智貢他「教育と倫理」(ナカニシヤ出版、2008年)

担当者から一言	教職を目指すみなさんにとって、共に考えていかなければならない課題です。現代の学校事情、教師の現状なども考えつつ、よりよい教師像を目指していきましょう。
---------	---

授業コード	N0162		
授業科目名	道德指導法(2クラス)(後)		
担当者名	古川 治(フルカワ オサム)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜2限

講義の内容	技術としての道德の時間の持ち方以前に、道德とは何か、なぜ必要かといった人間としての道德観の形成を考える。また、道德教育の歴史や現在の教育の全体のなかでの道德教育の位置づけ、道德性発達の基礎理解を学び、過去の試みの上に現在に必要な道德教育の素養を身につける。さらに、現代の道德教育の実践的試みなどを学びながら、最終的に現代という時代と社会における道德教育の必要性、具体的な展開を自ら考えることができるよう、幅広い道德観や人間観の形成に努める。道德教育は理論と現実の間の差異が起こりやすいが、それらを道德を求める人間の本性から考え、生徒とともに道德を考える姿勢を養う
到達目標	中・高校生の道德性や道德的判断力の発達に応じた教材・内容・論理・適切な教授法を作り出すことができる、基礎的な道德的判断力および指導力、教師としての素養を身につける。
講義方法	講義及びロールプレイ
準備学習	日頃から青少年のモラルや道德的行為について自分なりの分析、考察を行っておくこと。
成績評価	出席状況、受講態度、学習指導案、模擬授業、レポート等により総合的に評価する。
講義構成	第1回: 道德教育の可能性—道德教育とはなにか 第2回: 道德教育の位置付け—学習指導要領における道德 第3回: 日本の道德教育の歴史(戦前) 第4回: 日本の道德教育の歴史(戦後) 第5回: 道德性の発達についての諸理論Ⅰ 道德性の基礎とピアジェ理論

	第 6回: 道徳性の発達についての諸理論 II コールバーグ理論とブルの理論 第 7回: 道徳教育の授業理論 I インカルケーション、価値明確化 第 8回: 道徳教育の授業理論 II リコーナ理論、子ども発達プロジェクト、日本における試み 第 9回: 道徳観の形成 I ロックの道徳教育論 第10回: 道徳観の形成 II カントの公的教養と道徳 第11回: 道徳観の形成 III アーレントの公共性と道徳教育 第12回: 道徳観の形成 IV 日本の精神的伝統と道徳意識 第13回: 新しい道徳教育の試み・環境教育 第14回: 新しい道徳教育の試み・男女共生教育 第15回: まとめ
教科書	プリント資料による

授業コード	N0221		
授業科目名	同和教育の研究(後)		
担当者名	梅田武男(ウメダ タケオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限

講義の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育において人権(同和)教育の重要性について理解を図る。 ・人権教育と同和教育の関連について論究する。 ・人権(同和)教育の主要課題である部落問題については、部落差別の実態と解放への歩みを歴史をたどって明らかにしていく。 ・同和問題の解決を国民的課題として位置づけた「同和对策審議会答申」を学び、特別措置法や様々な施策について論究すると共に、残された課題について理解を図る。 ・人権(同和)教育の手法について論究する。 ・同和問題以外のさまざまな人権課題について学び、人権に関する確かな理解と自他の人権を尊重する精神と態度を養う。
到達目標	教育における人権(同和)教育の重要性についての理解が図られる。 部落差別の実態と解放への歩みについての歴史が理解できる。 同和对策審議会答申とそれに基づいて策定された特別措置法や諸施策についての理解ができる。 人権(同和)教育の手法についての理解ができる。
講義方法	講義形式で行うが必要に応じて視聴覚教材を活用する。
準備学習	日頃から人権に関することがらに注意を払い新聞記事などを収集するよう心掛けるようにする。 授業で示したテキストの箇所については必ず目を通しておく。
成績評価	期末試験とレポートによるが、出席を重視する。
講義構成	第1回 オリエンテーション、人権(同和)教育の重要性 第2回 人権教育と同和教育の関連 第3回 同和問題とは、部落差別の実態(1) 第4回 同和問題とは、部落差別の実態(2) 第5回 部落差別の歴史(1) 第6回 部落差別の歴史(2) 第7回 部落差別解消への取り組み(1) 第8回 部落差別解消への取り組み(2) 第9回 同和教育の取り組み(1) 第10回 同和教育の取り組み(2) 第11回 さまざまな人権課題(1) 第12回 さまざまな人権課題(2) 第13回 さまざまな人権課題(3) 第14回 人権(同和)教育の手法、まとめ 第15回 期末試験
教科書	秋定義和・安達五男他共著「人権の歴史・改訂版」(山川出版社) 甲南大学編「人権問題資料」 以上を講義で利用するので毎回持参すること。
参考書・資料	必要に応じて参考資料を提供する。

担当者から一言	テキストを早い機会に必ず購入し授業の際に必ず携行すること。
---------	-------------------------------

授業コード	N0171		
授業科目名	特別活動指導法(1クラス)(前)		
担当者名	藤井一 亮(フジイ カズアキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	月曜日4限(14:40~16:10)		

講義の内容	特別活動は、小学校、中学校、高等学校の教科、道徳(小学校・中学校)、総合的な学習の時間と並んで、教育課程を構成する一つの領域である。学習指導要領をふまえて、特別活動の目標と内容及び目標達成のための指導法について学ぶ。学校現場での具体的な指導を事例として、教育における特別活動の構造を探る。実際に諸活動・諸行事を計画し、自ら指導案を作成することによって特別活動の指導の実践能力を身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別活動の教育的意義についての知識・理解が深まるとともに、課題について考えることができる。 2. 特別活動の起源と変遷についての歴史的考察ができ、それに基づく指導ができる。 3. 学級活動(中学校)、ホームルーム活動(高等学校)の指導理論や実践力の基礎が養われる。 4. 生徒会活動や学校行事にかかる指導計画や指導案の作成ができる。
講義方法	講義を中心とし、かつ、受講者による指導案の作成及び演習を行う。
準備学習	中学校、高等学校の「思いで文集」、「生徒手帳」等を持っていけば、準備し、再読しておくこと。学校ボランティア等で、自然学校等に参加した人は、その行事の「しおり」などを用意しておくこと。下の欄に示した教科書類に目を通しておくこと。
成績評価	受講態度(積極的な参加・関与度)、課題・レポート、期末試験等、総合的に判断して評価する。なお、原則として、評価は10回以上の出席がなければ与えられない。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(講義の目的、内容、方法及び評価についての確認等) 2. 学習指導要領と特別活動 3. 特別活動の意義と目的 4. 特別活動の基本的な特色 5. 特別活動の歴史的変遷 6. 特別活動の領域と内容 7. 特別活動の指導上の留意点 8. 学級(ホームルーム)活動の特質及び内容 9. 学級(ホームルーム)活動の指導実践 10. 生徒会活動の意義と指導実践 11. 学校行事の特質、意義、指導上の留意点 12. 学級(ホームルーム)活動の指導案の作成と模擬指導 13. 特別活動の年間計画とその評価 14. 特別活動の課題と展望
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別活動編」 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」 晃洋書房「特別活動のフロンティア」
参考書・資料	母校の「学校要覧」「学校案内」等が手にはいるようであれば準備しておいてください。

担当者から一言	学校現場で如何に生徒を指導するかという問題意識を持って授業に臨んでください。
---------	--

授業コード	N0172		
授業科目名	特別活動指導法(2クラス)(前)		
担当者名	橘 幸男(タチバナ ユキオ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	在室しているかぎり、いつでもどうぞ。		

講義の内容	特別活動は、中学校・高等学校の教育課程を構成する一つの領域であって、各教科、道徳(中学校)、「総合的な学習の時間」と並ぶ重要な教育活動である。特別活動は、望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う、ということを目指している。この講義では演習を取り入れて、下記(到達目標)のような特別活動の指導法を実践的に身につけることを目指す。
到達目標	①学級活動(中学校)・ホームルーム活動(高等学校)の指導計画を立てて、指導案を作成する力を身につけるとともに、実践的指導力を身につける。 ②中学校・高等学校の学校行事の全体計画に基づいて、指導を実践できる力を身につける。 ③中学校・高等学校の生徒会活動を指導できる力を身につける。
講義方法	講義の他に、演習(指導計画や指導案の作成など)を取り入れるとともに、それに基づいた発表や模擬指導(教科の「模擬授業」に相当するもの)も行う。
準備学習	自分の中学校時代・高等学校時代の「学級活動・ホームルーム活動」、「学校行事」、「生徒会活動」がどのようなものであったのかを振り返って、まとめておくこと。(できれば資料を収集しておくこと。) 中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領の、それぞれの「第5章・特別活動」を一読しておくこと。 教育に関するニュースを新聞などから収集しておくこと。
成績評価	欠席は、3回以内にとどめること。 演習・発表・模擬指導などは、きちんとやり遂げること。 定期試験は、60パーセント以上を得点すること。(試験は、用紙2枚にわたり、すべて文章表現である。) 以上の3項を満たせば単位修得を認める。
講義構成	第1回 特別活動の意義・目的 第2回 特別活動の基本的性格と歴史的変遷 第3回 学級集団(ホームルーム集団)と学校集団 第4回 特別活動の領域・内容と、指導上の留意点 第5回 学校行事の意義と指導実践 第6回 生徒会活動の意義と指導実践 第7回 学級活動(中学校)の意義と指導計画 第8回 学級活動(中学校)の指導案と模擬指導(1) 第9回 学級活動(中学校)の指導案と模擬指導(2) 第10回 学級活動(中学校)の指導案と模擬指導(3) 第11回 ホームルーム活動(高等学校)の意義と指導計画 第12回 ホームルーム活動(高等学校)の指導案と模擬指導(1) 第13回 ホームルーム活動(高等学校)の指導案と模擬指導(2) 第14回 特別活動の指導計画と評価 第15回 試験 なお、必要に応じて、随時、教育に関するニュース等を取り入れる。
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領解説・特別活動編」(ぎょうせい、115円) 文部科学省「高等学校学習指導要領解説・特別活動編」(発行所・価格ともに未詳。発行されたい購入すること)
参考書・資料	資料は、ほぼ毎回到わたって配布する。 その他の参考書・資料は、講義の中で紹介・指示をする。
講義関連事項	欠席連絡・面談予約などは、tatibana@center.konan-u.ac.jp へ。
担当者から一言	教育実習は、教科における学習指導を行うだけでなく、特別活動の指導(学級活動やホームルーム活動の指導、学校行事における指導、生徒会活動の指導など)も重要な内容になっている。したがって、「特別活動指導法」は、「教科教育法」と同様に、教育実習を行う前までに(すなわち、3年次において)きちんと修得しておくべき科目である。この科目を教育実習と平行して履修することは望ましくない。

授業コード	N0173		
授業科目名	特別活動指導法(3クラス)(前)		
担当者名	古川 治(フルカワ オサム)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
講義の内容	学習指導要領を踏まえて、特別活動の目標と内容及び目標達成のための指導方法について学ぶ。特別活動		

	は、望ましい集団活動を通して、心身の調和の取れた発達と個性の伸張を図り、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う、ということを目標に掲げている。
到達目標	望ましい集団活動を通して、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てることが大切であり、自己を生かす能力を養うということが重要であることが理解できる。
講義方法	講義及びグループ活動
準備学習	地域の学校の体育大会や文化祭などを参観しておくこと。
成績評価	出席状況、受講態度、学習指導案、模擬授業、レポート等により総合的に評価する。
講義構成	第1回：特別活動の意義・目的 第2回：特別活動の基本的な生活 第3回：特別活動の歴史の変遷第 第4回：学級(ホームルーム)集団と学校集団 第5回：学習指導要領と特別活動 第6回：特別活動の内容 第7回：学級(ホームルーム)活動の意義と指導実践 第8回：児童会・生徒会活動の意義と指導実践 第9回：クラブ活動(小学校)の意義と指導実践 第10回：学校行事の意義と指導実践 第11回：特別活動の指導計画と評価 第12回：中学校・学級活動指導案の作成 第13回：高等学校・ホームルーム活動指導案の作成 第14回：中学校・学級活動の模擬指導 第15回：まとめ
教科書	プリント資料による

授業コード	N0091		
授業科目名	理科教育法I(教科教育法I(理科))(集中)		
担当者名	林 慶一(ハヤシ ケイイチ)、杉岡俊男(スギオカ トシオ)、森本 進(モリモト ススム)、山住一郎(ヤマズミ イチロウ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	随時(林)		

講義の内容	科学と教育の関係を基本に理科教育とは何かを考察するとともに、実際の教育・指導場面における留意点についても概観する。物理・化学・生物・地学の各分野の性質の違いを考慮して、各分野ごとに専門の教員が担当する。
到達目標	中学校及び高等学校の物理・化学・生物・地学の各分野の受講を構築するための基礎的知識を習得させる。
講義方法	物理・化学・生物・地学を1日ずつの集中講義で行う。日程は次の通りに決まりましたが、非常勤の担当教員の都合等により変更があり得るので、シラバスの更新及び掲示に注意すること。 9月12日(日)全体と地学, 19日(日)物理, 26日(日)化学, 10月3日(日)生物。 いずれの日も、9:00から始まりますが、10分前には入室していること(この科目の遅刻は、先生が遅刻するのと同じで、不適格者と見なします)。終了は16:30ころの予定ですが、延びることもあるのでこの期間中に別の予定は入れないこと。 物理は講義, 化学はデモ実験を取り入れた講義, 生物は講義と演習, 地学は講義と模擬授業を中心とする。
準備学習	高等学校において物理・化学・生物・地学のうち履修していない科目については、テキストとして購入した教科書を読んでおくこと。
成績評価	全分野の授業に出席することが評価の前提である。1日の欠席はいずれかの分野の全欠になるので、単位は出なくなる。また、遅刻・早退等は大きく影響する。 分野ごとの評価法は次の通りである。 【物理分野】 レポート(提示課題についての論究) 必修条件を満足している者について、判断する。 【化学分野】

	<p>毎時間の出席とレポートで行う。</p> <p>【生物分野】 講義中に課するレポート、指導案によって評価する。</p> <p>【地学分野】 模擬授業とディスカッションの内容、指導案による。</p>
講義構成	<p>【物理分野】(1～4時間目) 学習者が自然の事象を「物理」を通じた科学概念で理解し、その上に立っての自然認識を、如何に青年前期年齢の知的理解に相応のものとして会得させるかについて学ぶことをこの授業の主眼とする。もちろん、自然事象の根幹にある「物理」の領域のもつ必然性と基本性を意識した展開を考慮しながら進めることは言うまでもない。</p> <p>【化学分野】(5～8時間目) 科学・技術の発展は人類に物質的な豊さをもたらしたが、その反面陰の部分として地球環境の破壊をもたらしている。また、我が国では理科離れや若者の学問離れがとくささやかれている。このような時代にあつて、これからの化学教育ではどのような能力を期待して指導すればよいかを考察する。 化学教育で重要な物質認識(広く自然認識)について、そして認識の方法としての観察・実験の意義について、デモ実験を行いながら考える。また、環境保全と資源の有効利用の観点から、教育者として習得しておかねばならない観察・実験後の廃棄物の処理、再利用についても考える。</p> <p>【生物分野】(9～12時間目) 現行の中・高等学校(生物分野)のカリキュラムの内容と構成について解説する。また、生物領域の特徴や生徒の興味・関心を高めるための工夫について述べる。さらに、21世紀の生物教育の課題について考える。項目は次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理科(生物)教育の目的と目標 2. 中・高等学校理科(生物領域)のカリキュラムの内容と構成 3. 生物領域の特徴と教材開発について 4. これからの生物教育と課題 5. 指導計画と指導案の作成について <p>【地学分野】(13～16時間目) (1) 教科教育全体の中での理科教育の位置づけ、さらにその中での地学教育の位置づけを解説する。その際、自然科学の中での地学分野の諸科学の果たしている役割を考える。 (2) 理科の授業設計の一般的な方法を解説するとともに、地学分野の授業設計において特に留意すべき事柄について解説する。 (3) 中学校または高等学校の地学領域の一部の内容について、各自で「指導案」を作成し、それに基づく短時間の模擬授業を行う。 (4) この模擬授業および指導案を相互評価し、具体的な問題点を摘出し、それらを解決するための方法を検討する。 (5) ここまでの学習成果を生かして、各自の指導案を作り直してレポートとして提出する。</p>
教科書	<p>【学習指導要領関係】 文部省編「中学校学習指導要領解説-理科編-」(大日本図書) ¥110(中学校免許取得希望者用ですが、高校免許取得希望者もできるだけ購入してください) 文部省編「高等学校学習指導要領解説(理科編・理数編)」(実教出版) ¥336 【中・高校の教科書】…これがないと模擬授業・レポートの指導案が作れませんので、評価の対象外となります。 中学校教科書「理科 第1分野(上・下), 第2分野(上・下)」4冊で2,000円程度(いずれも出版社は問わない。中学校時代に使っていたものでもよい。) 高等学校教科書「物理I」, 「化学I」, 「生物I」, 「地学I」(いずれも出版社は問わない。高等学校時代に使っていた教科書でもよい。高等学校で選択していなかった科目については必ず準備すること。) 教科書の注文は面倒で返品ができませんので、事前に教職センター事務室に申し込んでもらって大学で一括注文します。詳細は7月上旬に掲示します(申込締切は7月末日)。</p>
参考書・資料	授業に必要な資料(授業担当者自身の作成資料)は授業時に配布する。
担当者から一言	(重要)上記の教科書が準備できていない場合は、出席しても授業に参加できません。

授業コード	N0092		
授業科目名	理科教育法Ⅱ(教科教育法Ⅱ(理科))(集中)		
担当者名	林 慶一(ハヤシ ケイイチ)、杉岡俊男(スギオカ トシオ)、森本 進(モリモト ススム)、山住一郎(ヤマズミ イチロウ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	随時(林)		

講義の内容	教科教育法(理科)Iでの習得内容を生かして、授業を行うための実践的なトレーニングを行う。
到達目標	中学校及び高等学校の理科の物理・化学・生物・地学の分野の任意の単元について、適切な教材・実験を構成し、円滑な授業展開をできる実践的な能力を習得する。
講義方法	11月～12月にかけて、3回にわたる日曜日に講義を行う。日程は次のように予定しているが、変更の可能性もあるので掲示及び本シラバスに注意しておくこと。 11月28日(日)物理, 12月5日(日)化学, 12日(日)生物。 9:00には始まるので、10分前には入室していること(この科目の遅刻は、先生が遅刻するのと同じで、不適格者と見なします)。終了は18:00ころの予定であるが、延びることもあるのでこの期間中は他の予定は入れないこと。 各自が行った教材研究と、それに基づいて作成した指導案に沿って演習模擬授業を行い、全員で議論する。
準備学習	模擬授業に取り入れる観察・実験については、事前に地学実験室まで相談に来て、必要な器具・薬品等を準備して、予備実験を行っておくこと。
成績評価	全分野の授業に出席することを評価の前提とする。1日の欠席は一つの分野の全欠となるので、単位は出なくなる。また、遅刻・早退は大きく影響する。 評価は主に次の2つによる。 1. レポート(模擬授業内容の指導案, その他) 2. 本人の模擬授業の内容と、他者の模擬授業へのコメント。
講義構成	【物理分野】 高校物理の実験を取り入れた模擬授業と討論(1～5時間目) 【化学分野】 高校化学分野の実験を取り入れた模擬授業と討論(6～10時間目) 【生物分野】 中学校・高校生物分野の観察・実験を取り入れた模擬授業と討論(11～15時間目) 【地学分野】 物理・化学・生物分野には地学と関連する内容が多くあるので、模擬授業で扱われた内容を地学的観点から取り上げる。
教科書	教科教育法I(理科)と同じ。 中学校・高校の教科書に沿って指導案を作成して実際に模擬授業をしてもらいますので、教科書がないと授業に参加できないので必ず購入すること。
担当者から一言	(重要)教科書の注文は7月末が締切ですので、忘れずに。